

# 月刊 岩小舎 6月号

## ■自主山行の記録

「」 5月28日(土) 「」

### 谷川岳・一ノ倉沢／烏帽子沢奥壁 南稜

「」

◆メンバー：伊藤幸雄(L)、伊藤栄子

◆記録：伊藤栄子

林道から一ノ倉沢に入りアイゼンをつけ雪渓に行く。雪渓から岩場に移る時はしゃがみこんで、雪の厚みを思わず確認。

靴を履き替え、アンザイレンでテラスに向かうが、灌木間の踏み跡の一步が高く息があがった。中央稜取付きから南稜テラスまでトラバースしたが、雪解け水でびしょびしょな嫌な道のが続く。既に疲れ気味でテラスに着く。一休みしてよいよ本番の登り。

1 ピッチ目、2 ピッチ目とセカンドで登り始める。2ピッチ目登り始めのチムニーに手を掛けるが、右足の使い方が下手でなかなか動けず、思いっきり A0 で引き上げ、三ツ峠の権兵衛チムニーの経験をいかし、ズリズリと通過した。

3 ピッチ目に行く頃、非常に空腹になったが『もう少し行ってからにします』と前進。

リードで 4 ピッチ目行くが、『落ちてはならぬ！』と自分に言い聞かせるあまり、ランナーを掛けすぎロープ 25m 残っているにもかかわらず、早目のピッチ切りにした。

最後のフェース終了間際が、ホールドがとても小さく感じられ、『怖いと思ったら A0！』としっかりヌンチャクを握って登った。

懸垂前に何か口に出来るかとホッとしたが、『テラスに下りてから休みます』となった。下降時、4 ピッチ目終了点で待機していた時、西部劇で谷間に岩を落とすシーンの様な物凄い音がし、『落！！』の掛け声、セルフビレイも千切れん勢いで、一緒にいた登攀待機の人と思わず岩にへばり付いた。私は一瞬見そこなったが、浴槽程の塊だったようだ。

無事に南稜テラスに着き一休みとなった。トラバース箇所は落石が多く、すばやく行くよう

#### 【今月の目次】

##### ■自主山行

谷川岳・一ノ倉沢／ 烏帽子沢奥壁 南稜	1
谷川岳・一ノ倉沢／ 烏帽子沢奥壁 南稜・衝立岩 中央稜	2
谷川岳・一ノ倉沢／ 烏帽子沢奥壁 中央カンテ	3
上信越国境／白砂山～法師温泉	4
会津～尾瀬／スキー縦走	5
藤坂ロックガーデン／RCT	7
藤坂ロックガーデン／RCT	7
北アルプス／槍ヶ岳北鎌尾根	8
三ツ峠／RCT	9
越沢バットレス／RCT	9
小川山／屋根岩2峰 セレクション	10
小川山／技術勉強会	11
廻り目平～朝日岳～金峰山／藪ごぎ	11
廻り目平～大弛峠／トレイルラン	12
日和田／RCT	14
御岳／ボルダリング	14
西上州／赤岩峠～大山	15
■「北海道に戻ります」 22 期・日浅尚子	16
■同人便り ～想い出の山行～ 笹生修一	17
■山の学習帳 No.13	18

～アルコール その2～

##### ■講習山行

八甲田山／山スキー	19
富士山／山スキー	22
三ツ峠／RCT	23
奥多摩／盆堀川桐葉窪	23
奥多摩 つづら岩／RCT	24
丹沢／箱根屋沢	25
丹沢／小草平ノ沢	26
丹沢／勘七ノ沢	27

##### ■じん帯繁盛記 ～その9～

■こちら技術委員会 ～下草～	29
■編集室だより&会員一言集	30
■5月の山行一覧・	31
■7月号の予定	32

にとの指示に、あっさりスマートに身体が動かないが、それなり？に移動した。

テールリッジ中間部のスラブを降りるのは、足の指先が痛くたいへん辛かった。(それ程キツイ靴ではないが・・・)

雪渓に渡る手前の懸垂は若いパーティのロープを使わせてもらい楽させて貰った。

全身ガチガチ(悪い意味で筋肉が硬いみたい)、腰は痛くへろへろ状態だったが、後ろを振り返り岩を眺めながら、ゆっくりと沢を降り谷川の岩登りを終わらせる事が出来た。

高度が上がると岩を信じる事が出来なくなり、自分の力で岩を落としそうな程何度も何度も岩を揺すった。それも岩稜の大きさに圧倒された恐怖心だと思うが、この経験を次につなげられるようマイペースで前進し、今後もチャレンジしたいなー！！

### 【行程】

ロープウェイ駐車場(2:45)～一ノ倉沢出合 3:45/4:10)～南稜テラス(6:00)～南稜～6ルンゼ下降～南稜テラス(11:00)～一ノ倉沢出合(13:00)～ロープウェイ駅(14:00)



「」 5月28日(日) 「」

## 谷川岳・一ノ倉沢ノ烏帽子沢奥壁 南稜・衝立岩 中央稜

「」

◆メンバー：横川秀樹(L)、山野美香

◆記録：山野美香

初めての一ノ倉。事前のトレーニングや道具の準備や心の準備で出発までにちょっと疲れてしまった。パートナーやK講師や家族など周りの人も、不安からくる私の質問責めにきつと疲れたことだろう。いやな顔もせず付き合って頂いて感謝している。そのお陰でいよいよ出発という時、私の中から不安は消えていた。

とはいえちょっと気にかかるのは真っ暗の中たった二人で一ノ倉沢までの道のりを歩くこと。けっしてパートナーのことが怖いというわけではない。丑三つ時の一ノ倉…靈感の強い私にとってお膳立てはバッチリだ。そこで無い知恵絞って非力ではあるがヘッドランプをもう1つ用意した。これは今回同行出来なかった‘人生のパートナー’のもので、お守り代わりと一ノ倉を見たいという思いも込めて…。(←ほんとに？)

2:10 起床。2:45 出発。伊藤夫妻も準備が整い4人で一緒に出発できたので暗闇の中を歩くのも心強かった。

一ノ倉沢出合で登攀具をつけ、アイゼンを履いて薄明るくなってきた雪渓をテールリッジ末

端目指して歩き始める。「あれが南稜、こっちが中央稜」パートナーが丁寧に説明してくれる。

テールリッジ末端でアイゼンをクライミングシューズに履き替え、アンザイレンしてⅡ～Ⅲ級程度の岩と笹藪を登っていく。途中トラバースや滑りそうな斜面など緊張する場面も出てきたが、そのようなところでは確保してもらい、無事南稜テラスに到着した。もちろん一番乗りである。

去年同ルートを経験済みのパートナーから各ピッチの特徴や注意点を聞きいよいよ登攀開始。

1P目はロープの流れが悪くなるのでチムニー手前でピッチを切る。そのチムニー、圧迫感があると始めの一步が高くてちょっと苦労した。2P目は広いフェースでどこを登っても行けそうな感じだ。3P目、草つき・笹藪の緩やかな登りなので私がリードで。4P目はハング下を左に回りこむ出だしの一步が大きく、足の短い私はやや難儀。リードした5P目は凹角から馬の背リッジへ出るが、少しずつロープが重くなってくるのに加えて傾斜の緩いところは支点が少ない。終了点が見えたとき迷わずそこでピッチを切った

が、もう少し上にはしっかりとした終了点が…そこまで行くべきだった。6P目、烏帽子沢奥壁側へ回りこむとき後ろを振り返ると素晴らしい展望と高度感。最終ピッチは核心部の垂直のフェースでいままでとは違った細かいホールドに緊張したがこれで無事終了となった。

続々と登ってくるパーティに「もう下降ですか」と声を掛けられながら懸垂下降を繰り返し南稜テラスへと戻り、その後慎重に中央稜基部まで行き、暖かい日差しに包まれてゆっくりと順番待ちをして約1時間後に中央稜に取り付いた。

ツルベで登ることにしてまず私が1P目に行く。ここは超快適(要するに易しい)に進むが終了点には前のパーティがつかえているので一段下の終了点で待つことに。すでに今日の登攀に満足してしまった私はこの後のリードはパート

ナーをお願いした。各ピッチともそれなりに核心があり、4P目最後は迷わずA0…。内心「リードしなくて良かったなあ」などと思ってしまったところがなんとも情けない。

時間切れとなり4Pを終えたところで今日の登攀は終了とし、下降を開始した。

### 【行程】

ロープウェイ駐車場(2:45)～一ノ倉沢出合(3:30/3:50)～テールリッジ末端(4:30)～南稜テラス(5:30) / 登攀開始(5:45)～終了点(8:20)～南稜テラス(10:00)～中央稜取り付き(10:20) / 登攀開始(11:20)～4P目終了点(13:30)～中央稜取り付き(14:40)～一ノ倉沢出合(16:30)～ロープウェイ駐車場(17:20)

「」 5月29日(日) 「」

## 谷川岳・一ノ倉沢／烏帽子奥壁 中央カンテ

「」

◆メンバー：横川秀樹(L)、山野美香

◆記録：横川秀樹

駐車場を出る。闇の中、ヘッドランプに照らされた空間にキラキラと光るものがある。小雨？ちょっと違うようだ。でも、霧でもない。露が降りてきているのかなあ…。いろいろ考えるが自然現象には詳しくないのでよく分からない。いずれにせよ、岩の状況が心配だ。

一ノ倉出合までの道は乾いている。しかし、出合の駐車場を見るとしっかりと濡れていた。夜中に雨が降ったのは間違いないようだ。

トイレや準備を済ませて雪渓へ。ちょうど薄明るくなってきたが、ガスであまり視界が利かずテールリッジ末端も見えない。岩が乾くまで少し待つことになりそうだな、などと考えているとようやく末端に到着。5本爪軽アイゼンを外して、3級～程度の岩場をフリーで越え、テールリッジを登っていく。

きのうは最初からザイルを結んでコンテで行ったが、二日目なのでノーザイル。パートナーの様子も危なげない。足元もアプローチシューズのまま。

中央稜基部から烏帽子沢奥壁側へ回り込むところは、ちょっとガレた感じでいやなところだ。

もちろん、落ちるとひとたまりもない。60～70mほど進むと、壁にペツルのボルトが一本打ってある。その左が2～3畳ほどの平坦なテラスになっていて、中央カンテの取り付けである。

相変わらずガスって岩も湿っぽいので予定通りしばらく待つことにする。そうこうするうちに、南稜へ向かうパーティがいくつかやってくるが、中には、南稜テラスが見えないためにとっても苦勞している集団がいたりした。のんびり他のパーティの様子を見ているのもなかなか面白い。

7時。次に来た二人組は、凹状岩壁へ行くという。取り付けから2ピッチ目の終了点までは、中央カンテと同じなので、先に行ってもらおう。そして、そのあとを追って我々もいよいよ出発…。しようと思ったらデジカメを落とした。カラン、コロンという乾いた音を立てて烏帽子スラブの急斜面を転がり落ちていく。あ～、メモリーカード込みで6万円以上もした私のFinePix F810の寿命は一年も持たなかった。残念。

気を取り直す暇もなく、1ピッチ目の出だしはトラバースから。かぶったところを、カラビナをつかんでA0で越える。既にフリーにこだわろうと

いう気力は、カメラを落とした時点で失せていたのかもしれない??? そして凹状となったルンゼに入る。傾斜は強くないが、脆い岩が多く、つかんだホールドがそのままはがれてしまう。滑りやすい泥が付いている岩も多く気が抜けない。40mほど進んでピッチを切る。支点は新しくしっかりしていた。

2ピッチ目も同じような泥と脆い岩の斜面。途中に2箇所、ビレイ点らしき古い残置ピトンがあるが先行パーティはさらにその先でピッチを切っている。ここは50m一杯に伸ばすはずなので、私もそこまで行こうとする・・・が、どうもおかしい。こんなに直上していいのだろうか。よくみると、今いる地点より、ずっと左側にきれいな確保支点があるのを発見。おそらく、最初に見つけたビレイ点から左上していくのが正解だったようだ。といっても、いまさらトラバースはしにくいので、とりあえず上まで行くことにする。美香さんにも上がってきてもらって、そこから下り気味に左へ移動。この作業にかなりの時間を費やした。

さて、ここからいよいよ中央カンテ3ピッチ目のスタートだ。しかし、左上するバンドはビッシヨリと濡れている。トポにも「濡れていることが多い」とか「濡れていると悪い」と書いてある。内心、さっさと下降するかなと思ったが、パートナーの手前、そういうそぶりは微塵も見せずトライしてみる。右から一段上がって、そこからバンドに乗り上がればよいのだが手がかりがない。乾いていれば、ヒザもフルに使ってのマントリングという手もありそうだが、見える範囲に残置ピトンもなさそうなので無理はしないことにする。バイルをドロドロの草付きに打ち込めば何とか上がったかもしれないが、そこまでして登る気はなかった。

続いてパートナーからのアドバイスにより、確保支点から真上のフェースを登って、左上バンドの途中に合流するというルートを試す。しかし、これも今ひとつという感じで、結局下降することに決めた。

ここからの下降は、斜めに降りる感じなので手間取ったが、1ピッチ降りた箇所(1P終了点)で、中央稜4P終了点から空中懸垂してくるパーティと合流。どこかで見た人だと思ったら、元山塾講師で3月の小同心クラックのときもありがたいアドバイスを頂いた広瀬ガイドであった。ということは・・・、さらに下降してくる人に、山塾同期で3月に退会された日浅さん、もう一人、山塾の先輩で日野さん、と知った顔が続く。

ここからもう1ピッチ降りて、取り付きに戻り、中央稜基部に移動してひと休み。広瀬さんが若かりし頃、南稜フランケルルートだったかの冬期単独初登を狙って、3年間続けて12月24日に一ノ倉に通い、最後は幽霊?に恐れおののいて退却したという面白い話を聞いて、下山。

それにしても、中央カンテの1P、2P、そして登れなかったが濡れた3Pといい、どれもおよそ快適とは言いがたいクライミングで、先行パーティからの落石にヒヤリとさせられた場面もあった。

次、再度トライするかどうかは、現段階では何とも言えない気分だ。

#### 【行程】

ロープウェイ駅駐車場(3:00)～一ノ倉沢出合(3:45/4:05)～テールリッジ(4:30)～取り付き(5:30)～登攀開始(7:10)～2P終了点(9:00)～下降開始(9:15)～中央稜基部(11:00/11:15)～一ノ倉沢出合(12:15/12:25)～駐車場(13:10)

「」 4月30日(土)～5月1日(日)「」

### 上信越国境／白砂山～法師温泉

「」

◆メンバー：松本善行(L)、宮下卓宏

◆記録：宮下卓宏

新百の燕、塩見には野口が行ってくれる事になり夢のGWをプレゼントされた。急ぎ兄貴・松本に連絡、白砂～三国峠にて指導していただくことに決定、その足で焼鳥を頬張りながら「兄貴

との山行はいつもこうですね～」とボヤいたのが山行3日前だった。

今年は残雪が多いと聞いていたが、長野原草津駅からみた本白根山は想像より黒く「ヤバ

イ、残雪多しを理由にコースを決めたのに」とブツブツ言っている間に野反湖畔着。エリアには白砂山～稲包山は猛烈なヤブ、篤志家向きルートと書いてある。予備日まで目一杯使うのか？ 3日下山法師温泉泊、4日帰京だけを唯一の楽しみとし出発。入山してみるとそれなりに残雪の多さを感じるも白砂まではトレースがあり、白砂～佐武流は人気ルートらしい。正月の間ノ岳・尾無尾根では兄貴のハイペースに付いて行けず、撤退の一因となってしまったことが仇となり、頑張りすぎて今回もバテ&山人生初の足が吊ってしまいトホホ。遠足歩きのための1年半を今回も反省。唯一の救いは白砂を越した2078m 地点に予定通りテントを張れた事ぐらい、明日は3時起床、気を引締め就寝。

4時頃起床、6時出発、兄貴との山行では標準タイム、自主山行の好きなところだ。本日も快晴+心地良い風、今回の核心部と思われる区間、三坂峠手前の黒尾根分岐周辺まで行ければ御ノ字、ペースに注意しながら出発。歩き始めると雪解けが進んだ箇所から猛烈なヤブの一端が見てとれた。15年振りの大雪に感謝。「無雪期に歩いたら凄いや、もう一度来なくては！」と眼を輝かせながら兄貴、聞こえぬ素振で山座同定。上ノ倉山で90度右折する尾根を下るがウロウロ、他にも解り難い箇所があった。視界良好でこの有様、利かない時の難度が想像でき気を引締める、三坂峠まではエスケープ無しなのだ。

セバトノ頭、千耳尾根を過ぎた所と記憶している、解りづらい急下降箇所。これから進むべく稜線を眺め予定よりだいぶ先まで進めそう、予備日を消化せず法師温泉泊も手中に収めたと気が緩んだのだろう。一步踏出しただけで今までは違ふと解る雪面だった、次の瞬間兄貴が転倒、急斜面であったがヤバイとは感じなかった。さすが兄貴、5メートル程で止めてみせ苦笑い。次の瞬間「外れた、外れた、外れたかも」「？」「肩が」顔から血の気が引いていくのが解った、ザック+体重を右腕1本で支えたいらしい。実は兄貴、今回が3度目の脱臼とか、直ぐさま

落着きを取り戻し「はめてくれ」「？」本や映像では見た事あるが初体験、斜面にピッケルを打込み引っ張ってみるが違うみたい、登り返し平坦な場所でもう一度。横になり首と脇腹に足裏をつけ背筋測定のとおりでゆっくり引っ張る、相当痛いらしく顔をゆがめ「痛ててて」。次の瞬間「スコッ」の音とともに入ったのが解った、と同時に血色が戻っていく。入ったとはいえ痛むらしく歩きにくそう、装備分担も即下山も頑なに断る兄貴には改めて感服、高度を下げるとともにヤブがうるさくなってきたが、法師温泉への執着のせいかペースは落ちない、あつという間に三坂峠へ。三国スキー場へ下る夏道があるので嫌がる兄貴を説得、湯沢温泉泊で渋々下山してもらうことに。

スキー場への道は北斜面で残雪多く沢を渡らなければならない、小さく雪渓状に残っているが今にも落ちそう。しばらくウロウロするが良い箇所無く濡れるのを覚悟で浅瀬を徒渉、湯沢温泉まで我慢ガマン、沢沿いの道を嫌ってスキー場中腹まで登り返し最後にバテバテ、誰もいないゲレンデをタクシー目がけ直滑降、とりあえず無事？下山完了となった。

今回は気の緩みを痛感させられた山行となった。「家に帰るまでが登山」は遠足の鉄則なのに、反省。早期下山となったがコース中の核心部は走破できたので良しとしたい。天候に恵まれた結果、ルート判断できたが悪天候時は相当に苦勞しそう。やはり沢、谷を下るのは極力避けるべきと改めて感じた。下山後の人參が最も重要かも？次回目標は「白砂～苗場」皆さんご一緒しませんか。主宰、お休みお願いします。

#### 【行程】

4月30日(土)

長野原草津駅(10:00)～野反湖畔(11:00/11:30)～白砂山(15:50)～2078m(16:30)

5月1日(日)

テン場(6:00)～上ノ倉山(8:30)～三坂峠(15:00)～三国スキー場(16:00)～越後湯沢(16:30)

「」 5月1日(日)～5月4日(水) 「」

### 会津～尾瀬ノスキー縦走

「」

## ◆メンバー・記録:岩本一郎

個人的にテーマとしている会津尾瀬山スキーの一環。これまで湯ノ小屋―至仏山―尾瀬沼―燧ヶ岳―御池間はスキー登山でつながっており、その線を今度は会津方面からつなげようという計画です。事前の準備でエスケープする際の確実性も上がっており、地形的危険箇所はないので条件さえ良ければ可能と考え入山しました。

5月1日 重荷(装備はかなり絞ったのでそう重くもないはずなのだが)で登っていると暑くて汗がぼろぼろと落ちる。スキーの縦走装備で稜線まで1000m以上を登りあげるの、思っていた以上にきつかった。今日はずっとかつぎでもいいかとも思っていたのだが、雪がつながってきた巽沢山の手前でスキーをはきシール登高とした。やはりこの方がラク。途中、家向山の手前から見えた窓明山の稜線がかなたに高く見え、今日登るところにしてははずいぶん遠いなあと感じた。だいぶ疲れたが、幸いほとんど雨に濡れずに避難小屋に入ることができた。その避難小屋も、前日泊まったパーティが窓から出入りできるように掘ってくれていたとのこと。ラッキー。夕方からは雨となった。今日登った尾根はスキーで下るにも好適だと思う。

5月2日 霧雨で視界が悪く風もあるので朝の出発は見合わせる。昼になって視界が回復したので出発した。三岩岳から会津駒間は、右側の針葉樹の林に沿うようにして雪庇の基部をシールで進む。雪が多いこともあって困難な部分はなかったが、ところにより雪庇が波打っているため林の中へ迂回した。小さな登りはスキーを引いて登ってしまう。この区間に限れば駒ヶ岳から三岩岳方向としたほうが良いようだ。会津駒ヶ岳の山頂では風当たりが強く、気温も下がったようで、濡れていたシールやビンディングがたちまち凍ってしまった。駒ヶ岳山頂からの滑降は、斜面が固い上、つぼ足の穴ぼこがやたら開いているので滑りにくかったが、無事に駒ノ小屋に到着。布団付き素泊まりである。

5月3日 今朝は快晴、燧もくっきり見える。がんばるぞ。小屋から1996m点までは安全のためスキーは担いでアイゼンで下った。この区間もヤブはわずかで、難なく通過。そこから御池まで滑走モードで行く。平均すれば下りであるとはいえず、緩やかなアップダウンの稜線である。滑れる

ところもあれば、緩く登るところもあり、そう速く進むものではない。ある程度の登りは、スキーは脱いで流れ止めを持って引いて進んだ。大杉岳からの下りは樹林なのでやや判りにくいが、あちこちに目をやりながら尾根の状況を見てルートを外れないように滑る。赤布などは見当たらなかった。時にGPSも確認しながら下り、御池の駐車場に昼前に到着した。

今回の主目的は達成したが、ここからは沼山峠を越えて長蔵小屋の幕営地に向かうことにした。沼山峠への道は除雪されていたのでスキーはザックに付け歩く。道路終点まで我慢できず適当なところから山に入って沼山峠に上がった。ついでに大江山を往復。峠からはコースサインを追って滑り降り、大江湿原の雪原に出て長蔵小屋へ。ツェルト泊。

5月4日 三平峠から大清水平に出るつもりがトレースに引きずられ尾瀬沼岸に行ってしまった。方向を修正し、大清水平に出ることができた。ちゃんと自分の磁石に従わないといけませんね。森の中を登り皿伏山を越えてうまくセン沢田代に到着。白尾山に取り付くが、以前登っているので山頂は割愛してトラバースで富士見峠に出ることにした。1900m位でシールをはずし、高度を落とさないようにトラバースして、うまく富士見峠付近に出ることができた。アヤメ平からは赤布がついたコースをたどり、鳩待峠まで漕ぎも交えてのんびり滑った。

### 【行程】

5月1日(日) 曇のち雨  
保太橋(10:20)～家向山(13:40)～窓明山(15:30)  
～三岩岳避難小屋(17:05)泊  
5月2日(月) 雨のち晴



出発(12:45)～三岩岳(13:30)～大戸沢岳(15:40)  
～会津駒ヶ岳(16:50)～駒ノ小屋(17:00)泊  
5月3日(火) 晴  
出発(6:35)～大津岐峠(8:00)～大杉岳(11:15)～  
御池(12:30)～沼山峠(15:25)～大江山(16:15)～

尾瀬沼東岸17:20泊  
5月4日(水) 晴  
出発(6:10)～三平峠(7:00)～皿伏山(9:00)～富  
士見峠(11:25)～アヤマ平(12:40)～鳩待峠(13:3  
5)

「」 5月1日(日) 「」

### 藤坂ロックガーデン／RCT

「」

- ◆メンバー：松永己幸(L)、田中治男
- ◆記録：松永己幸

マルチピッチをスムーズに行う事を本日の課題とする。

ウォーミングアップ後南稜を登る。終了点から懸垂下降しようとロープダウンするが、松の木に絡まりいくら引いても取れない。近づいてよく見ると2箇所も絡まっている。ロープを切断しようという案もあったが、ナイフはザックの中にある。二人でどうしようかと悩んでいる所に、別の自主組みがのこぎりをぶら下げ助けに来てくれた。感謝！グイッとロープを引くと、松の木が折れ絡まりを解く事ができた。

松の木を折ってしまったことでオーナーに謝りを入れたら、谷川はこれよりアクシデントが起きやすいので、更にここで練習を重ねるようにと指導を受ける。

もう一度南稜を登ろうと思ったら、オーナーがこんな簡単な所を登っても練習にならない、凹状岩壁～オリーブルンゼを登りなさいと言うので、

行ってみた。難しくないルートではあるが、リードで登るとドキドキした。声が届かなくなり、言葉での意思の疎通が出来なくなる。言葉で無く、ロープやホイッスルで相手の状況を把握する必要を感じた。

下まで降りて来ると、オーナーに“もう帰りたいのだが君たちが心配で見守らなくてはいけない”と、厳しくも暖かい言葉をかけていただき、今後はオーナーに安心して帰れると言うまで練習を積みたいと思った。

又、ナイフやホイッスルをザックに入れっぱなしでは意味が無いと反省した。

一方、本日の課題はぎこちないけれど、身についてきていると実感した。

#### 【行程】

トレーニング開始(8:30)～終了(16:00)

「」 5月1日(日) 「」

### 藤坂ロックガーデン／RCT

「」

- ◆メンバー：山野美香(L)、山野昭人
- ◆記録：山野昭人

ゴールデンウィークの帰省にあわせて、藤坂ロックガーデンでのマルチピッチのトレーニングを企画した。駐車場が整備されて広くなり、駐車しやすくなっていた。

岩場基部に到着すると、藤坂ロックガーデンの名前よろしく、藤の花が三房ほど咲き出して

いた。松永・田中ペアがすでに登り始めていたので、われわれも負けじとマイナーリッジにとりついた。最初の支点までが遠い。不安な場合は、簡単なルートから登って最初の支点に掛けてから、下降して登りなおせば良いと思う。マイナーリッジを登って下降すると、斉藤氏に会うこ

とが出来たので、無名山塾として今年分の使用料を支払った。「この岩場に来る人で結構亡くなる人がいるんですよね。今年も一人ヒマラヤで亡くなった」と斉藤氏。なんとなく不安になったが、気を取り直して再び登り始める。南稜を3ピッチで登り頂上へ。下降すると松永・田中ペアがロープを木に引っ掛け、壁の真ん中で回収に苦戦している。しばらく見ていたが、斉藤氏から手渡された鋸をぶら下げ、救援にむかった。4人で奮闘すること10分。何とか回収に成功し

たが、小枝を一本折ってしまった。

最後にパピヨン岩稜を登った。ここは左右に全く逃げずに一直線に登ると、最上部は少々張り出し気味で結構難しい。UIAAグレードでIV+くらいだそう。まだ挑戦していない人はぜひ試してみてほしい。

#### 【行程】

トレーニング開始(9:30)～終了(15:30)

「」 5月4日(水)～5月5日(木)「」

### 北アルプス 槍ヶ岳北鎌尾根

「」

◆メンバー：金沢和則(L)、坂口理子、横川秀樹、山野美香

◆記録：山野美香

この山行に参加するかしないか随分迷った。重荷を担いでの渡渉、トラバース、雪壁 etc… エスケープルートもないことから、途中で何かしらの迷惑をかけることになったら大変だ。でも… こういう機会というのはタイミングや巡り合わせや縁といった、よくわからないけれどなにかしらのエネルギーがそこに集まって形になる… そんな気がして、行かないなんて選択肢はないとも思える。悩んだ挙句、軽量化の為にちよっとの投資をし、出発までに体力強化を図ることを心に決めて参加させて頂くことにした。

夜行列車…初めての体験だったがこれには参った。ほとんど眠ることが出来ずに信濃大町駅に着き、タクシーに乗り換えて高瀬ダムへと向かう。時間が早いせいか巨大なロックフィル式ダムに人影はなく、ゆっくりと身支度を整えて出発。

ひんやりする長くて暗いトンネルを過ぎると、そこにはエメラルド色の静かな水面が広がっていた。良く整備された道を約1時間、ここから登山道らしくなってくるがほぼ平坦な道なので重荷もそれほど気にならない。

硫黄の香りが漂いはじめた頃、対岸に晴嵐荘が見えてきた。ここ湯俣温泉は厳冬の北鎌尾根に逝った加藤文太郎が最後に待避所として目指したところだそう。その先の吊り橋を渡り、トラバース気味に時折フィックスロープを頼りにしながら進んで河原へと降りる。水俣川の水

量は想像以上に多い。

しばらく河原を行くとまた踏み跡に導かれるようにトラバース道へ入るが、頼りないワイヤーに不安定な足場ということもありロープを出して慎重に進むことにする。が、トップの横川さんが少し進んで戻ってきた。支点が朽ち果てて外れ、ワイヤーの末端が川の中へ落ちている。その先にも支点らしきものはなくとても進めるような状況ではないらしい。

河原へと戻り渡渉できそうなところを探すが、轟々と凄まじい勢いで流れる水はとても私たちが受け入れてくれそうな気配がない。そうはいつでもこちらだってここで引き下がるわけにもいかず、まず様子見がてら横川さんがサンダルに履き替えスポンを脱いで川の中へ入るが少し進んだだけで既に腿くらいまで深さがあり、その上水流が強く先まで進めそうにない。少しでも浅そうなどころがないかと河原を行ったり来たりし、残るメンバーも短パンになって水の中へ足を踏み入れるが冷たい雪融け水の激流に阻まれ、3時間ほどの格闘の末結局断念することになった。

初日で撤退を余儀なくされ、早々に河原に幕営。河原で一杯飲みながら明日からの予定について相談し、場所を移して白馬主稜にでも行こうかということに話はまとまった。

翌朝高瀬ダムまで戻るとちょうどタイミング良く登山者を降ろしたタクシーに乗ることができ信濃大町駅へと向かった。駅で今後の天気予報



を確認すると明日から雨とのこと。白馬主稜プランも断念し、私の5月連休は不完全燃焼のまま幕を閉じた。

【行程】  
5月4日(水)

信濃大町(6:00)<タクシー>高瀬ダム(6:50/7:10)  
湯俣温泉吊り橋(10:00)～水俣川河原(11:00)渡  
渉断念(15:00)～河原にて幕営(16:00)  
5月5日(木)  
起床(3:30)～出発(5:10)～高瀬ダム(8:30)<タクシ  
ー>信濃大町駅(9:00)

「」 5月8日(日) 「」

### 三ツ峠/RCT

「」

- ◆メンバー:伊藤幸雄(L)、伊藤栄子
- ◆記録 :伊藤栄子

- ① 中央カンテ:2ピッチ目、右手A0で右足を思いきりツツパリ、息も絶え絶えで引っ張り上げてもらった。
- ② 権兵衛チムニー:1ピッチ中間部のピンにランナーを取る努力をしたが、身動きが取れずクライムダウンし、リード交代した。セカンドで行っても遅遅として登れず、両足の突っ張り方と体を垂直にするバランスが

非常に悪く、涙が出るほど通過するのに時間を費やした。  
2ピッチ目、左外側に回りこむ際の体を投げ出す瞬間が、非常に恐怖だった。

- ③ 一般ルート左

以上、3ルートにて終了。

### お知らせ

#### 無名山塾・本科(登山学校)のご案内

無名山塾・本科は自立した登山者の育成を目的とし、1年間で岩・沢・雪の基礎的な技術(24単位)を取得して頂きます。入会申し込み、お問い合わせは、無名山塾事務局まで電話、FAX、ハガキ、Eメールで。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

TEL:03-3941-3481(平日 10時-18時) FAX:03-3941-3482

メール: [sanjc@coffee.ocn.ne.jp](mailto:sanjc@coffee.ocn.ne.jp)

入会金:10,000円、年会費:12,000円

山岳保険料:8,000円(4/1～3/31)

「」 5月8日(日) 「」

### 越沢バットレス/RCT

「」

- ◆メンバー:横川秀樹(L)、山野美香
- ◆記録 :横川秀樹

1年ぶりの越沢バットレス。前回の記録を読み返してみると、『このぐらいが楽にリードできない

ようでは・・・と、修行不足を痛感した一日だった』と書いてある。

そう、たしかにあの時は苦勞した。パートナーがすべり台(と呼ばれる箇所)から、5～6メートル転がり落ちてきたりして、死ぬほどビックリした記憶が今も生々しい。くしくも、今回もまた同じパートナー。

さてリベンジとなるか、トラウマがさらに深く大きく心の奥底に沈殿し続けるのか……。まあ、ある意味、きょうがこの夏の本番に向けた試金石でもある。

朝一番に岩場に到着。他パーティはまだいない。う～む、この岩場は威圧的だなあ。第一スラブと第二スラブも恐ろしげだ……。でも、岩というのは下から見るとコワいけど、実際に取り付くとそうでもないということがよくある。きょうはどうだろう。

とりあえず左ルートでもアップがてら行きますか、ということを取り付く。1ピッチ目、前はちょっと悪いなあと感じたはずだったが、今回は何も感じず。上手くなっているのか、鈍感になっているのかよく分からないが、次のピッチはさすがにV級ということで手ごたえがある。

左上するクラックというと小川山のカサブランカっぽいですが、実際はもっと泥臭く、クラック登りというよりはレイバックか、サイドプルみたいな感じで登る。

このルートは2ピッチで終わりなので、下降して第二スラブへ。これまた前回は恐ろしく感じた

桧テラスからの2ピッチ目。えっ、どこが?っていうくらい、きょうは難しくない。3ピッチ目は前回同様、右からのトラバースルートへ。なんだかホールドがよく見えるなあ。そうそう、昔巨人の川上哲治が「ボールが止まって見える」と言ったような気がするが(ちょっと古いかな?)、それに似たような感じかも。

最後は右ルート。下部はいくつかラインがあるがV級のハング越え。これは前回と同じルート取りだ。そして、2ピッチ目は、きょう初めてパートナーにリードしてもらおう。多少、緊張気味だが無難にこなしてくれた。私はセカンドで行ったわけだが、ここが一番悪く感じて、唯一A0したくなった箇所。なんでだろう。

3ピッチ目は、前回、大フォールが起きた地点。とにかく、あの記憶を消すべく慎重に登る。よく見れば、足は外側にちゃんとあるし、何でここでパートナーが落ちたのかなあと首をかしげてしまったが、まあまだ二人とも若かったのだろう……。ということで、問題なく終了。

前回のリベンジを果たし、かなりの成果はあったと思うが、美香さんはどう感じただろうか。本番前の仕上げに、ここはおススメだ。この日は幸い混雑がなく、全部で10人ぐらいだった。

### 【行程】

鳩ノ巣駅(6:55)～岩場(7:35)～左ルート～第二スラブ～右ルート～終了(13:00)～鳩ノ巣駅(13:45)

「」 5月14日(土)」

## 小川山／屋根岩2峰 セレクション

- ◆メンバー：横川秀樹(L)、山野昭人、山野美香、福島彰男
- ◆記録：福島彰男

素晴らしい快晴。爽やかな新緑の中の小川山、ベテラン先輩の中に1人新米の24期生が加わる。上手く登れるだろうか、マルチピッチがスムーズに出来るのだろうか、緊張で手に汗が…。

横川さんのリードで続いて山野美香さん、福島、山野昭人さんの順にスタート。

1P目、最初からクラック、余りやったことがない。果たして上手くいくだろうかと思いつながらア

タック。手こずり、苦勞しながら登る。

上を見上げると別ルートの「蜘蛛の糸」と呼ばれている垂直壁の細いクラックが真直ぐ空に向かって伸びている、物凄壁である。2P目はその「蜘蛛の糸」の下部スラブを登るが、出だしが大変、いきなり岩壁が、それを越えると長いスラブが待ち構えていた。特に登り始めは傾斜があつて、ホールド、スタンスが乏しく暫し立ち往生。焦る、気持ちいを落ち着かせ、細かなスタ

ンスを見つけなんとか登る。3P 目は右にトラバースし、チムニーに入り、登りきる。ここはスムーズだった。4P 目の登り始めは木登りから。木は枯れていて滑り易い。その木を利用して登り、目の前の岩に飛び移るが、上手く岩に移れない。どうすることも出来ないので仕方なくヌンチャクを掴み乗り移る。乗り移ったあとのスラブも一苦勞。そのあとチムニーを登りそして再びスラブを登る。

5P 目は“恐怖のトラバース”。まず 4P 目の終了地点から狭い急な斜面を降りなければならない。滑り落ちないように、又石を落とさないように慎重にトラバースの開始地点に降りる。そこから 10m～20m位の所をトラバースするのだがとにかく怖い。最初の出だしから嫌らしい。心配なので私の後に登っている山野氏にも落ちたらフォローをお願いしてなんとか出だしを渡る。ここからが問題の箇所。落ちたらと思うと“びびる”。とにかく手は岩をアンダーで持ち、足は滑らないように細心の注意を払って無事通過。

6P 目いきなりクラック、かなり難しそう。リード

の横川さん、続く山野美香さん無難に登りきる。登る前からなんとなく心配。なんとか途中まで登るが、あとはもがきながらそのクラックを脱出。そのあとのスラブを登り無事終了。手は擦り傷で血が滲んでいた。まだまだ未熟であると痛感した。横川さん、美香さん、昭人さんありがとう御座いました。

このあと駐車場近くの「きたない大岩」8 級ルートにトップロープを張りボルダリングに挑戦。このルートは最初が核心部分で難しい。初め 8 級レベルならなんとか登れると思ったが甘かった。再三チャレンジするが登れず。横川さんのアドバイスを受けるが疲れ尽きて小休止。再びチャレンジし漸く登りきる事ができた。腕はパンパンで精魂使い果たしてしまった。

#### 【行程】

セレクション取り付き(9:05)～終了点(12:20)  
駐車場前ボルダー前(14:00)～ボルダー終了(15:00)

「」 5 月 15 日(日)「」

### 小川山／技術勉強会

「」

- ◆メンバー：横川秀樹(L)、山野昭人、山野美香、福島彰男、松永己幸
- ◆記録：松永己幸

ガマルートを予定していたが朝から雨が降ったりやんだりとはっきりしないので、金峰山荘前の東屋で技術勉強会をすることになった。

今まで素朴に知らなかった事やここが知っていたという事を実践で学習する。

まずは確保器の種類と違い、その使い方及び注意点。どのような時は有効で、どのような時が危険か、セカンド引き上げの時テンションがかかりロックしてしまった時の対応とその実際を知る。

マルチピッチで登攀する時の基本的な用具の

種類と最低必要量、カムデバイスのナッツやフレンズの使用目的や使用方法、使用上の注意、又、回収方法、回収時の注意点を知り、実際に使わせていただく。

懸垂下降中トラブルが発生した時、空中停止方法を東屋のはりで行う。

天候は雨が降っていて、みぞれから雹に変わっていた。

#### 【行程】

勉強会開始(10:30)～終了(13:00)

「」 5 月 15 日(日)「」

### 廻り目平～朝日岳～金峰山／藪こぎ

「」

◆メンバー：伊藤幸雄(L)、伊藤栄子、福田洋子、黒田記代

◆記録：伊藤幸雄

チェアキャンプを利用して翌日の日曜日に藪漕ぎの自主を計画した。

実は、この企画、去年も実行したがどう間違えたか際どい岩稜に上がってしまい敗退している。だから今回はその雪辱戦でもある。

ルートはキャンプ地から藪漕ぎで朝日岳に登り、金峰山を廻って廻り目平に戻ってくるコース。

この藪漕ぎの難しさはルートの大半が木々で覆われていて目先が利かず、目印となる地点が判断しづらい点、そして地図には出ていない岩々を避けながらルートを選定しなければならないこと。つまり、高度計からおおよその位置を確認し前に進むことになる。

しかし、最大の難関は最初の入り口。ここをトチルと全然違った方向に出してしまう。キャンプ地から金峰山の登山道を少し歩いて左の西股沢を渡るとやや広い平坦な草木地がある。そこに降りている尾根から登りだすことにしていた。ただ、これが意外と見つけづらい。

平坦なうえ山裾は同じような木々で覆われていて目先が利かず目印となるものもない。平坦で歩きやすそうな地形ほどポイントが見つかりやすいものである。去年はこの一步を誤信してしまい最終的には岩稜に登ってしまった。

今回は山裾にある小さな岩壁を目印にその手前から尾根に入り込むことを決めていたが、悲しくもその岩壁を通り過ぎてしまい迂回する形で登り始めている。なかなか思うようには行かない。

ルートの基点として高度 2150mの鞍部、2480mの朝日岳に繋がる大きなピーク、そして2578mの朝日岳を目指した。

始めは白樺の林を気持ちよく歩くが高度1800mぐらいから石楠花の木々に覆われ始め、

掻き分けながら前に進む。

目標の主尾根に向かって登っているつもりが、最初に上がったのはその尾根から分かれている小尾根だった。なんと微妙にそれていたことになる。

小尾根を登り本来目指している主尾根にたどり着くまで、出発から2時間もついやした。藪は時間が掛かる事を実感する。

主尾根に上がるとなんと踏み跡がありテープもしっかりと着いていた。

なんか悔しい思いをしてしまうが、実はこの尾根も意外と大変で、細く途中に岩場もあって左右に廻り込むことが何度も出てくる。

急勾配の尾根登りを続けるうちに天候が悪くなり雨が降ってきた。高度 2100mを越えたところでもう11時になってしまった。全行程の1/3にも満たない。このまま突っ込んで、ヘッ電山行になりかねない。またエスケープも難しくなることから、残念ながらここで中止とした。

2年続けての敗退である。今回はリーダーである自分の時間読みの甘さが悪さをしまい、メンバーに申し訳なく思う。

下山は主尾根を忠実に降りることにした。しかし、残り200m近辺から石楠花の群生がまたも邪魔し藪漕ぎを余儀なくされた。廻り目平のキャンプ地に着いたのは13時、天候は不安定で雹が降りだした。早目の下山は正解だったと自分に納得。でも悔しい～来年もチャレンジだ！

### 【行程】

キャンプ地(7:40)～登り地点(8:20)～小尾根(9:00)～主尾根 2100m地点(11:00)下山～キャンプ地(13:00)

「」 5月15日(日)「」

## 廻り目平～大弛峠／トレイルラン

「」

◆メンバー・記録: 松本善行

<目的>

2005/5/22 に開催された『星の郷 野辺山高

原 100km ウルトラマラソン』に向けてのトレーニング。(本番 50km で沈没(-\_-))

### < (完走ならぬ) 感想 >

たいくつな林道歩き(左腿の痛みで結果的に走れなかった)を自ら計画し、3 時間近くも続けることなど正気の沙汰ではない。ということは承知の上である。しかもそれを往復することになるうとは・・・。

本年 GW 山行の右肩の脱臼からランニングをしばらく中断。そして 1 週間程前より遅れを取り戻そうといきなり長距離を再開したのだから、左腿が悲鳴をあげているのだ。だから連日は走れない。やむを得ず休憩日を入れる。それなのに 2, 3 日間も！と思っている休息は意図せず疲労が抜けきっていない。お願いだから無言でいてくれ！と左腿に請うのだが、少し走ると痛み出す。本番完走の気力が次第に落ちていった。朝から雨が降ったり晴れたり、山特有の天候であったが、大弛峠に着くや否や雨は雪に変わった。残雪量はこの時期にしては多いが、新雪が薄っすら積もり出したのは意外だった。左腿の痛みがひどいので、今自分の身なり(半袖、短パン、トレイルシューズ)が、あまりにも周りの状況(豊富な残雪と風雪)と mismatch であることを、これはどうしたものか？と考えるのだが、またあの林道を下るのお～！！と思うと、その勇氣？とは変だが、なかなか踵を返すことが出来ない。しかしよいよ寒さにも耐えられなくなってきた。又、この足では金峰の下りも苦労すること間違いない。心境における前進 50%、後退 50%は、惰性で前進しているわけだが、ある瞬間、前進 49%、後退 51%となると、いともあっさり引き返すのである。

山の常識として、GW 中の降雪は決して珍しくないが、5 月半ばは初めてである。また海外山行において、2000 年の夏、金澤氏、坂口氏(外)ら、とのマッターホルン遠征中の、モンテローザアタック時、7 月末日附近であるにも拘らず吹雪かれ、撤退を余儀なくされたことは、御当地としては年間を通し、ごく当たり前の気象変化であろうが、私にとってはとても印象的であった。

よって、気象遭難とは、そのほとんどは予想外から起こるものであると、またしても痛感させられる結果となった。

### < 追記 >

廻り目平に来て、まったくクライミングをやらなかったこと。今回で 3 回目になる。

1 度目は 18 期有志と立ち上げた今は無き某山の会で、元山塾講師の H 氏を招いて“山菜摘天ぷら山行”なるものをやったのだった。それは私が計画者となっていて、あえてクライミング禁止令を発したのだ。「廻り目平に来てクライミングをやらない。」なかなかの皮肉で、もちろんそれにこだわったものである(H 氏も開拓時代を含めて「俺も初めてだよ」と、いかにも情けないといった具合だ)。では趣旨は？と聞かれた場合、無さそうで実は明確な趣旨がある。いささか屁理屈に聞こえるかも知れない(完全な屁理屈か?)。我々山塾会員は毎年サバイバル訓練というものを行っているが、その“サバイバル”を広義の意味で捉えた場合、クライミング技術に限定されるものではないことは明白である。他に挙げるとすれば、まずは食料の問題だろう。ならば、緊急時の樹林帯での食材探し、つまりは食べられるものを直接採取し、知っておくべきだと考えるに至ったわけだ。もともと、涸沢岩峰群など、開拓当時の話を交え、案内してもらったという別の収穫もあったが。

2 度目は去年である。もともとはパートナー不在が要因であるが、「日和田行ってくる」と言って日和田山頂に行ったことがない方が多いのと同様、「小川山行ってくる」を真に実行しただけのことである。因みに山頂の印象はというと?・・・なんとも言えない。

### 【行程】

廻り目平(9:10)～作業小屋跡?(10:00)～大弛峠(11:50)～朝日峠手前(12:30 往路を戻す)～廻り目平(15:00)

### お知らせ

#### メーリングリストのご紹介

無名山塾の本科、研究生、同人、講師の連絡用に sanjc2004 メーリングリストが運営されています。現在、本科生 8 人、研究生 5 人、同人 16 人、講師 3 人が登録しています。登録がまだお済みでない方は是非登録の申し込みを下記アドレスまでお願いします。

「」 5月16日(月)「」

日和田/RCT

「」

- ◆メンバー：伊藤栄子(L)、久野真由美、福島彰男
- ◆記録：伊藤栄子

男岩トップロープクライミングのみ。

- ① 南面クラック、クラック右、右ルート  
右ルート下部スラブ終了点より、右手ホールドを取る為に立ち込みと腰の押し付けを意識した。(F氏アドバイスにて)
- ② ステミングフェイス、バルジ、アンダークリン

グフェイス

- アンダー部を取った後、右足をクラックで使ってしまった。次回ルートを間違えずに練習する。
- ③ 松の木ハング  
全員、一応チャレンジしたが、ぶら下がって終了。

「」 5月21日(土)「」

御岳/ボルダリング

「」

- ◆メンバー：横川秀樹(L)、山野美香
- ◆記録：山野美香

人工壁でトレーニングを続けているのはなんぞでだろう？ やり始めた頃は、アルパインの本番ルートに行った時に役立つと思っていたから…。たしかに徐々に腕や指の力がついてきたような気がする。でも最近は単純に何級が登れたとか登れないとか、そんなことを楽しんでる自分がある。とにかくなにをやっても長続きしない私がいまのところジム通いを続けているのは、なにかしらの魅力がそこにはあるからだろう。

とはいえ外の岩でボルダリングをしたことはなく、Y氏から「御岳ボルダーに行かないか」と誘いを受けた時、行くと返事をしてたもののそれがどんな感じなのかイメージが掴めないでいたが、チェアキャンプで小川山を訪れた時に辺りに点在するいくつかの岩を眺め、触れてみて、人工壁とはまったく違った岩の感触に子供のようになんかワクワクしてきた。

7:30 御岳発電所駐車場集合。相変わらずY氏の朝の早い計画には参るが、結果的には1日が有意義に過ごせるのだから良しとするか。

ボルダリングマットを背負った二人組みは“ぬりかべ”のように御岳のハイキングコースをのんびりと歩いていく。恒例の岩場一番乗りだ。

「すべり台岩」でウォーミングアップを始めるころ、あたりには夏の香りが漂い始め、川面に光る日差しが眩しい。10級、6級を何本か登り「オーストラリア岩」へ移動。ここで5級をなんとかクリアし、すでにかなり満足してしまったが、つづく3級とモンキーカンテ 4級はまるで歯が立たず、しばしマットの上で休憩。

次は「とけたソフトクリーム岩」。今日の目標にしていた5級ルートにトライしている小学生がいる。父親が熱心に指導しているのをこちらも熱心に観察し挑戦するも敗退。あきらめずに何度も何度もチャレンジしている小学生に触発されて気合を入れ直しなんとかクリアした。すると周りのボルダラーから拍手が…。これがなんとも照れ臭い。

続いて「ピンチオーバーハング」、「デラシネボルダー」と巡り、最後の「デッドエンドの岩」では7級のルート2本の難しさに苦労した。

【行程】

駐車場(7:30/7:50)～各岩にてボルダリング(8:10)～終了(15:30)

「」 5月22日(日)「」

## 西上州／赤岩峠～大山

「」

◆メンバー：福田洋子(L)、工藤寿人、伊藤栄子、伊藤幸雄

◆記録：福田洋子

「天丸橋に集合」は、地図や記録で確認して決めた場所でした。が、しかし、ある人は行き過ぎ、ある人は引き返してみたりと既に集合からルートファインディングが始まっていました。渡るはずの橋が渡らずに済んでしまう事もあるんですね～、林道整備のマジックですわ。まっ、無事に全員集まってセダンに乗り込みいざ登山口へ。

いつもの赤岩峠まではルンルのハイキング。足の運びも口の運びもなめらかに順調に。峠で進路と高度を確認し、これからがホントのルートファインディング。ですが回りの木々の緑は淡く、花の盛りとときは気分も浮き立ち自然と踏み跡を追うようになります。チョット待て、このまま行くと大ナゲシ行っちゃうぞ。ピークに登り返して軌道修正。薄くなった踏み跡にこっちのが踏んでいるんじゃない？こっちからのが降りてるっぽいよ。で降りてみて「なんか斜度が違ってきてる。あっちだよ」でトラバース。最近は間違いに気付くのが早くなったなあ。

花柄のカーベットになった稜線に「この時期選んで正解だったね」の声もあがります。最近の赤岩尾根はずいぶんとマーカーだらけになってしまいましたが、この辺は少し抑えられているようです。誰にも会いそうも無いので自分たちの世界に浸って、「あれ登るのかな？」「すごい密度の等高線になってるよ」「やっぱピーク踏むでしょ」などと大きな声でしゃべりながら、今いるピークから次のピークを観察し降りようとした時。下の岩陰からオジさんの顔がヒョコ、続いて若者がヒョコ。聞けば巡回のお仕事だそうで、我々みたいに遊びで来ているのと訳が違いました。こうした見廻りの方がいるおかげで標柱などが維持されているんですね。そして思いました、ああいう仕事も経験者から若い世代に引き継いでいくものなのではないでしょうか、私の目には明らかにオジさんは大ベテランで若者は\*\*\*に見えました。ソウシロウ山(エアリアにも地形図にも名前がありません、オジさんに教わりました)を回って

降りるとの話聞き、そこでも思い当たるふしが、先程の私達が誘い込まれそうになった尾根がオジさん達の見廻りルートなのだ！！踏み跡が誘ってたもんな。

「コレって巻くんじゃないの？」言ってるそばから既にI氏は登りはじめていますし「仕事の人は基本的に岩は巻くんだよ」「でしょ、あそこにテーブルあるし」「でも僕達は遊びに来てるんだから登ったほうが楽しいでしょ」「忠実に尾根よね」「・・・」「早くコイよ」

1510mのピークは行程の約半分。眼下には今朝通った林道に橋梁と峠を挟んでこれから行く倉門山に大山へと続く稜線。「ん、ん～気持ち良い～」峠の名前が六助さんとなれば、なんかあるかも。笹に埋もれる寸前の祠を発見。さっきからの私達はまるで犯人を追う刑事のように何か(別に何もありませんが)痕跡さがして藪の薄い所を足で探り手で掻き分けてジワジワと追い詰めて進みます。

「おおっ」といきなり拓けて伐採地、その長さ300mはあろうかのワイヤーが尾根の上から見下ろす林道まで伸びていた。「これにカラビナ・スリングかけてイッキに降りたら早いだろうな～」「どんなスピードだよ、飛んでっちゃうよ」「途中で溶けて落ちるんじゃない」「スゴイぜ～、ワイヤーでワイヤーのバックアップが一本二本三本四本……。」「仕事に来てるって事は近道があるって事だよ」「次の時はこの辺から登れるんじゃないの?」って、おしゃべりしながら次々と次回の構想が勝手に一人歩きをしはじめて口も忙しいけど、何時の間にか倉門山に到着。

さて、これからのルートはどうしようか？天丸山じゃ一般ルート、対する大山は破線のルートもあるし破線の書いて無い記録のルートも有る。「ここは大山行って破線も無いルートにチャレンジしよう」という事で進路を北に。

本で紹介されコレはイカンと地元の人が思ったのかどうかは知りませんが真っ赤なペンキが「天丸橋→」を仕切りに指示するがあえて無視

する我々一行は大山からも期待に胸を膨らませ、そのまま北に向います。薄い踏み跡を尾根伝いにつて記録にあったけど、ホントは薄くない踏み跡を尾根伝いに行きました。でも、いよいよ尾根からそれる所で新しいマーカーと古いマーカーで別れる事に……。ここでも選択、古いマーカーで天丸橋にまっしぐらに行ってみよ～。

この選択が正しかったか否か。きっと正しかったのでしょう。だって、とっ～でも楽しかったから。踏み跡無くなり沢に出て、傾斜が強くてザイル出し、枯滝出てきて懸垂三回。

あ～っという間に天丸橋にドンピシャだったんだもん。楽しく無い訳がありません。山に浸り、山に遊ぶ、「うんうん、堪能できました、ありがとう。秋にも又来るからね」仲間にも、山にも挨拶交わして帰りました。

#### 【行程】

天丸橋→鉾山住宅(5:55)～赤岩峠(6:55/7:05)～1510m(9:50)～倉門山 1572m(11:30)～大山(11:50/12:20)～天丸橋(14:25)

### 『北海道に戻ります。お世話になりました』 22期・日浅尚子

転勤が決まり、7月1日に北海道室蘭市に移ります。東京に来たのが4年3ヶ月前。旅行気分に参加したツアー登山の帰りのバスで、たまたま隣りになった方から勧められて無名山塾に入会したのが、ちょうど3年前の6月でした。

以来、私の人生、滅茶苦茶です。リコンしても変わらなかった人生が、山塾入会で変わってしまったんですから。

土日の休みは、必ずどこかの山。夜勤明けの平日、睡眠時間3時間でザックをしょって家を飛び出し、会社で居眠りはしょっちゅう。住宅ローンの繰り上げ償還にと思っていたトラの子は、あっという間に消えてしまいました。職場の同僚たちとの宴席も最少にし、浮世の義理は欠いてばかり。極めつけは、急に決まった弟の結婚式を日和田の講習のためにサボったことです。

下りの悪路に腰がひけて泣きべそをかいた祖母・傾山の縦走。女三人汗まみれになったカモシカ自主。途中ではぐれて反省、反省の長谷川カップ逆コースロング縦走。残雪を踏み抜いたらお尻まで埋まって抜けなくなった長峰峠。「ヒアさんには向かないんじゃないの？」と言われて逆にムキになって打ち込んだアイスクライミング(「イ、ワ、サ、キ」という掛け声と一緒にバイルを打ち込むと、なぜか、パシッと決まるんです)。思い出の山も心に残る講習もたくさんあって、書ききれません。

どの講習も文句なく楽しく、充実していました(ついていくのがやっつとで、いつも必死でした)。山塾の講師の方々や先輩、後輩、そして同期の皆さんを通じて「山」を知ったことで、「山」は私の永遠の友達になりました。ツアー登山のお客さんだったり、ガイド登山の経験だけでは、こんなふう「山」が私に近づいてくれたとは思えません。

「山」は厳しくもあります。非情です。未熟者をはねつけ、優れた登山家にも制裁を加えます。ここまで「山」を知ってしまった以上、日々、努力し、新しい技術や知識を身につけ進歩しなければならぬと思います。そして、山に対して大胆さと臆病さ、自信と謙虚さの、両方を持ち続けなくてはならないのです。

東京にいて随分多くの時間を山に費やしてきたように感じますが、「山」を知ってまだたった3年しかたっていません。太く短い山人生を送るのか、それとも、細くてもじっくり長く山に取り組むのか。もちろん、私は、「細く長く」を選びます。

山塾を通じて「山」と「山」を愛する人たちと出会ったことが、一生の宝物です。山へのアクセスには恵まれていない室蘭ですが、北海道の山ともいい関係を築いていきたいと思っています。



## ■ 同人便り ～思い出の山行～ 【笹生修一】

会員#300 笹生です。かれこれ山塾に入って10年以上になります。

私が山塾に入ったきっかけは、その当時山スキーがやりたくて何処か良いところが無いか探していた時、「山と渓谷」の募集記事を見たからです。ところが肝心の山スキーはやっていないとのこと、あと少しすると山スキー関係の部門が出来るから、それまで山塾に入ったらと勧められて、それで入った訳ですが、これがまたやってみたら面白い！今までにやったことがないことが沢山あり(沢登り、岩登り、夜通し歩くカモシカ山行等々)、驚きや、楽しさ、新鮮な発見、嵌りました。勿論講師、諸先輩の方々に恵まれたおかげです。本科生、研究生、同人となり所属も山塾、EC クラブ、山ゼミと掛け持ちで活動していました。現在では、アクティビティが下がりほぼ幽霊会員状態になってしまいました。

5年ぐらい前からは、スキーに嵌ってしまい(山スキーではありません)段々と山塾の活動から足が遠のいていったのも一つの要因かもしれませんが。あとは時間とお金。山もそう思うのですがスキーって本気でやると色々大変です。なにせ雪無し県に住んでいるので、因みに私の場合スキーシーズンは11月の立山から5月の月山までの約6ヶ月間です。

そんなこんなで、一応山塾を離れることにしました。

数ある山行の中から思い出に残る失敗談を紹介します。

まずは 山塾に入った最初の剣合宿。夜行で室堂まで入りそこで集合して 25 キロ以上の荷物を背負って室堂から剣沢のテント場まで、実際 25 キロ以上の荷物を背負って歩くのは初めて、雷鳥沢までは難なく快調でした。しかし登り半分も行かないうちに足が攣りそれこそみんなの足を引っ張る状態に。別山乗越手前では、岩崎主宰が下まで迎えに……。出来の悪い生徒が困ったもんだと思われたかもしれません。(ヤバ)

今から考えると一寸不味いんじゃない、という荷物(食料)は因みにステーキ用 250 グラム牛肉を凍らせた物、スパゲッティのミートソース自家製同じく凍らせた物その他、(テント人数分)

食は豊かでしたが、あほですね。後の合宿は、何とかこなすことが出来ました。良かった～。

このときの合宿かその次の時かよく覚えていないのですが、岩崎主宰の班で、八ツ峰下半部登攀中に落石が砕けて二つに割れその小さい方が岩崎主宰のヘルメットを直撃！こっちは慌てたんですが、本人はケロッとしていたのが今でも印象に残っています。運も実力ですね。

研究生の夏合宿おきまりの早月尾根コースこの時は、30キロぐらいの荷物でしたか。だらしないことに早月小屋の天場に着いた時は、バテバテでした。

次の日カニのハサミを抜け剣岳を踏み 下山コースカニの横ばいを抜け前剣を過ぎたあたりで、難所を過ぎて気が抜けたのか、バランスを崩して岩場から剥がされ背中からそのまま落下！御陀仏かな？と思ったのですが、高さも3m位しかなく、幸い大きいザックのおかげでショックもなくビックリしただけで済みました。<教訓:最後まで気を抜くな >

ドジって得をしたこともありました。自主で尾瀬のカモシカ山行の時のことです。

それまでに 2 回ほどカモシカ山行の経験がありそんなには難しくないかなと易しく考えていました。一応自分がリーダーで 10 名位の参加でした。此処のカモシカ山行は、お勧めです。但し道に迷わないように・・・。

尾瀬御池集合で始まりました。熊沢田代までは、難なく快調に行ったんですが、未だ山スキーが十分出来るだけの雪が残っている状況で、そこからコースを少し右方向にズレが生じ 獣道みたいな踏み跡に入り込んでしまったんです。此処でビックリ！なんと一面駒草の群生地今までに見たこと無いぐらい大きさです。足の踏み場のない位でした。(場所は内緒?)そこを抜けると胸ぐらいの高さの木が密集している所にて赤布が着いていたのでそれを目印に木の上を歩いて(木の上を歩くことなんか今まで無かった!)やっとなら規定のコースに出ることが出来ました。地図とコンパスによるナビゲーションはしていたんですが、現在地誤認がありました。<教訓:何事も嘗めたらいいけません >

他にも色々なことが自分のことだけではなく

有りました。

歩きながら眠ってしまい崖に落ちた、ビレイしたつもりがちゃんと出来ていなかった。支点確保が不的確で抜けた。大丈夫だと思って力をかけた岩がとれた。沢で流された。滝壺にはまった。浮き石で足を捻挫した。落石で怪我をさせた。雪庇を踏み抜いた。雪崩を起こした。等々。

山は単独でやる場合もありますが、殆どがグループやパーティを組んでやる時の方が多いと

思われます。そこで、交通安全標語では有りませんが、(注意一秒怪我一生)何て事に成らないように、状況確認、注意喚起、意思疎通は、滞りなく行うように心掛けて下さい。

それでは皆様会社に行って帰って来る時のように“行ってきます”“ただいま”と言う感じで安全に気をつけて、無理や無茶をしないで、思う存分山を楽しんで下さい。

## ◆◆◆ 山の学習帳 No.13 ◆◆◆

### 【アルコール その2】

焼酎のラベルに“黒麹”などと書かれたものがある。麹は麹菌のことでカビの仲間だ。通常日本で使われている麹は黄麹で白に近いが、黒麹は黒く見える。黄麹と黒麹は兄弟みたいなものだ。黒麹の方が雑菌の繁殖を防ぐ酸を多く出すので、暖かい地方では黒麹の方が向いている。沖縄の泡盛の製造に使われる泡盛麹も黒麹の一種だ。でもちょっと待てよ。酒って酵母のアルコール発酵によってできるんじゃないかっけ？ 何で麹が出てくるの？ それは酵母は酒の原料である米や麦や芋の主成分であるデンプンを、直接分解することが出来ないからだ。麹によってデンプンが分解されてブドウ糖になり、これを酵母が分解してアルコールをつくりだす。麹と酵母のコラボで酒はできるのだ。ワインの原料はブドウすなわちブドウ糖が原料なので、麹は必要としない。またビールの原料は大麦だが、これが大麦自身に含まれる酵素によりモルトすなわち麦芽糖に分解されるので、麹は必要としない。

さて、山でアルコールを飲むと酔いが早いと言われるが、もともと酸素の薄いところでは脳の働きが鈍っているので、アルコールによる神経の麻痺との相乗効果がでるためだろう。高所では平地と同量のアルコールでも 2 倍の効果？ があるという説もある。前号で人間が 1 時間に分解できるアルコールの量は 7g 程度と紹介したが、アルコールの適量という別の見地もある。酒が百薬の長でありうる量で、良く言われるのは、日本酒なら1合程度というものだ。山では酒

を持ち寄るため、畢竟ちゃんぽんになりがちだから、これをそれぞれの種類に換算しておくのと有効だろう。日本酒のアルコール度を 14%とすると、「適量」を純粋なアルコールに換算すると 25ml 程度となるので、これを他の酒に換算すると以下となる。

酒の種類	「適量」
ビール	500ml。缶ビール 2 本。
ウイスキー	65ml。軽いロック 1 杯。濃厚なアルコールは吸収早いのでちびちび飲む。
ブランデー	63ml。上品に二杯。
ワイン	250ml。アルコールの吸収を阻害するポリフェノールが多いので日本酒より多めとした。
焼酎	126ml。4 倍に薄めればビールと同等
シャンパン	250ml。ワインと一緒だが、つい飲みすぎる。
ウォッカ	50ml。濃厚なアルコールは食べながら飲まない胃が荒れる。

少ないと嘆いている諸兄も多いだろうが、アルコールが最も速く影響を及ぼすのは大脳の新皮質の機能で、認識・記憶・思考・判断力などの機能を司る部分だそう。的確な判断や正確なネットワークが必要な、ルートファインディングや岩登り、両者が要求される沢登りを翌日に控えているときは、当然のことながら宴会も早めに切り上げたほうが無難なのだ。以上を心得て大いに飲みましょう!?

(同人・山野)

## ■講習山行の記録

「」 4月30日(土)～5月2日(月) 「」

### 八甲田山／山スキー

「」

- ◆メンバー：工藤寿人(講師)、沢口千鶴子、伊藤幸雄、伊藤栄子、福田洋子、久野眞由美、シニア1名、遠足1名
- ◆記録：久野眞由美(4月30日)、伊藤栄子(5月1日)、福田洋子(5月2日)

#### 【4月30日(土)天候・晴】 報告者：久野眞由美

《宮様ルート》

三々五々、昼に酸ヶ湯温泉に集合。冬に、青森では市内でも1メートルを越える積雪があったおかげか、酸ヶ湯周辺でも昨年よりも積雪が豊富でした。集合日、天気も良く、じっとしているのは勿体無いと、早速、ひと滑りしに出発しました。

ロープウェイ山頂駅から、ホンの一歩きで1326mのピークへ。地元ではこれを「田茂菟岳」と呼び慣わしているようですが、地形図上では南東すぐ隣の1324mのピークを「田茂菟岳」としています。ちなみに地元では、これを「ニセ田茂」と呼ぶそうです。

初日の足慣らしという事もあり、優雅に(?)「宮様コース」と呼ばれるルートを滑ることとなりました。板を履き、まずは大きなコルに向けて無立木の斜面を軽快に滑り降り、広い雪原を横断して行きました。宮様コースに入ってから、下り・登り織り交ぜながらの延々と長～いトラバースが、毛無岱の広々とした台地まで続きました。この台地も延々とパタパタ歩き、歩き飽きてくる頃に、やっと短い急斜面のツリーラン。その後もゆるゆるとした歩き・滑り。流石「宮様コース」、このルートはせかせか滑るのではなく、ゆるゆると優雅に景色を楽しみながら辿るツアーコースなのでしょう。

樹林の切れ間から、酸ヶ湯温泉の屋根が見えると、温泉の玄関・駐車場に開けた急斜面。下には観光客ギャラリーが…。ツアーコースの最後のハイライトはこの斜面のようです。冷やかし、冷やかされながら、一人一人ポンポンと初日最後の滑りに飛び込んで締めくくりました。明日以降、酸ヶ湯に戻るルートは全て、ここがその日の最後の見せ所(?)になるのだろうかあ～♪

#### 【行程】

酸ヶ湯集合(13:00)～酸ヶ湯(13:55)～バス・ロープウェイ～ロープウェイ山頂駅(4:15)～「宮様コース」～酸ヶ湯(16:12)

#### 【5月1日(日)天候・晴】 報告者：伊藤 栄子

《箒場岱ルート》

ロープウェイ山頂より目の前の赤倉岳目指し、眼下に広がる平坦地に向かい一気に滑り降りた。シール登行の始まりで重いスキーを引きずりながら進む。雪の無い所に近づくとも斜度も上がり、苦手なトラバースをなるべく避け、クラミングサポートのお蔭で直登で頑張ったつもり。しかし、トップにピタリついてピョンピョンとついていく遠足会員のパワーにはいつも驚き!

意外と短時間で残雪終了点に着き、スキーをザックに取り付け雪解けの水溜り・ぬかるみを行くが靴もウェアも泥だらけ。けれど、童心に戻りグチャグチャと歩けるのも楽しく、山頂に到り東面まで降りた。

暖かな日差しの中、遠足会員様より新茶のもてなしを受けランチタイム。360度どこでも自分の好きな所を滑ってイイよと言わんばかりの斜面が広がり、誰でもワクワクすると思う。20°弱?の斜面下の木立に向かい、順次スタートし柔らかい雪と程よい斜度に「楽しい!」の声が飛ぶ。

次に待っていたのは辛い斜滑降でのトラバースで、トップが飛ぶように滑っていき姿が見えなくなり、続いて追っていくと回り込んでいて更に斜滑降継続…休憩したいのだが歩行は嫌だと思いつつ進む。山スキーならではの面白さ?辛さ?かな…。辿り着いた時にはメンバー達も太ももをパンパンにした一場面と思わず座り込んだ。進行方向の確認をするとルート表示

板が現れだし、ブナ林に入り休憩。樹林間が広く、緩やかな最後の斜面と空を仰ぎ見、芽吹きを見ながらバス停に向かった。

### 【行程】

ロープウェイ山頂駅(9:40)～シール着け(10:00)～赤倉岳(11:40)～ブナ林(12:20)～バス停(13:00)

### 《中央ルート》

箒場岱コーススタート地点より 90 度くらい南寄りに滑り出て、沢に入り込まないように流れるように毛無岱に向かう。グランドのように広い所で講師からのココアサービスを受け、マツリとした休憩で天気に恵まれた春スキーの楽しさを感じる。酸ヶ湯に向かうシュプールに沿い、各自の好きなように滑り、コース最後の湯坂に到着。気を引き締め、それぞれの技を駆使し一気に滑り降り、山行を終了した。

山スキーを始めた方々、八甲田のゆったりしたスキーも素敵です！

### 【行程】

ロープウェイ山頂(14:30)～1120m地点(15:00)～酸ヶ湯(16:00)

## 【5月2日(日)天候・朝方まで小雨のち晴]報告者:福田 洋子

### 《銅像ルート》

心配していた夜半の雨も山頂駅ではややガスがかかる程度となり早速 1326m 地点に移動。左手のただっ広い尾根から前嶽へとコースを確認して滑り出る。いつもボーゲン一辺倒の私とSさんとTさんを見かねていたのか前の夜から指導意欲がむくむくと沸いてきたI氏がターンの実技指導を個別チェックしてくれる。ゆるゆるの緩斜面では心掛けていても斜度が増すとすぐにボーゲンに逆戻り。これは何度も何度も繰り返す身体に刻み込まなければいけないらしい。教える聞くとやはり板に乗っている歴史と経験が違う。

尾根から沢の一つ越えて前嶽の鞍部に着く、今度は前にも増して広い斜面、その先にブナの林が目一杯手を広げて待っている。工藤さんが「雨の後は雪が適度に湿り気を含んで滑りやすい」と云っていたが納得。今までのシュプールの跡とかも板に引っかかりからず気にならない。

まるで風の中を泳ぐようにすべり適度な間隔のブナ林に入ると梢から可愛らしいさえずりが聞こえてきた。スズメよりかなり小さな小鳥がブナの新しい芽をついばんでいるようだ。その場があまりに気持ち良すぎてしばし休憩してTさんよりダケカンバ・ブナ・白樺の植生について教わる(Tさんごめんなさい、家に着いたら忘れしました)。

その後は樹林の気持ちのいい斜面をそれぞれが堪能していたらいきなり銅像茶屋に到着。ちゃんと止まらないと 2m の雪の壁から車道に落ちる所でした。

### 【行程】

ロープウェイ山頂駅(9:30)～銅像茶屋(10:35)

### 《大岳環状ルート》

1 本目の銅像ルート終了からいいタイミングでバスに乗れたので午前中に又ロープウェイ山頂駅に戻ってこれた。

今回の八甲田山スキー最後のコースは大岳まで行って酸ヶ湯温泉に戻るルートとなる。昨日の箒場岱ルートのように赤倉岳経由の尾根状に行くのかと思っていたら工藤さんが地元のガイドにリサーチをして少ない登りで大岳に行けるコースを聞いてきたのでまずは皆で確認する。

1 日目に入った宮様ルートの沢沿いを一滑り。左から張り出す一つ目の尾根を巻いてから現在地の確認。二つ目の尾根から登る事になり各自シールを付ける。昨日使ったシールは一晩部屋で乾かしたがマダ湿っている。どうもこのシール乾きが悪いようだ。前にKさんから「シールにもスキー用のワックスを塗るといいよ」と云われていたが今回は絶対やっておこうと心に刻む。水気を吸って余計に重く感じる所為なのか、体力が無いからか、まだまだ板に安定して乗れていないからなのか前の人との間が 1 度引き離されるとなかなか縮まらない。

井戸岳から派生する尾根上にあがり、ここから井戸岳と大岳のコル目指し黙々と登る。上から吹き降ろす風が段々強くなり斜度がなくなると大岳の避難小屋がみえた。この辺りの積雪は避難小屋の 1 階部分をまだ十分埋めるほどあるが、小屋の周囲は管理の為か掘り下げられている。風を避けてしばし休憩の後、希望者のみ大岳を往復。今までの 4 本のコースと違いここ

まで来る人は少ないようで今ここで大岳に行くのは私達だけだ。それぞれのペースで好きなルートを取り 30 分程で山頂に到着。風が強くと剥き出しになっている、南面を覗き見ても這松だらけで柵には今朝方まで降っていた雨が海老の尻尾を作っていた。

山頂からの出だしは 30 度弱の斜度かと思うが、とにかく広い誰もいないので私はミットも無かろうが何だろうが転ばなければ良しとするボーゲン滑りで鞍部まで行った。こういう斜面を滑るI夫妻は実に楽しそう。もちろん工藤さんもかなりカッコ良く滑っていたがギャラリーは私達だけでした。

鞍部で待つ2人と合流しマーカールに沿って大岳環状ルートに入るが古くから有る標示板と竹ざおの指導標と微妙にルート取りが違っている。共に付けられた時の積雪量によるものだそうでその時に最適なルートをマークするからだろう。込み合った樹林の間をキックターンでしのぎ大岳東面にトラバース大きな斜面を一滑り。下り過ぎたかと思ったが毛無岱を右下に見て左の支尾根の壁のような雪面をトラバースぎみに取り付き階段登降で乗っ越すと「オオッー！！」一斉に歓声が。今度は今までの中で一番の大斜面。ガスっていたらさぞかし大変だろうがこの最高のお天気に大感謝。竹ざおが樹林に混じる所まで好きな所を思い思いのルートで楽しみました。

今シーズン転びに転んで足をパンパンに何度もさせて、新雪・深雪・湿雪と毎回替わる状況の中で、又そのコース取りでと苦勞して自分が上達しているのか否かととても不安に思っていました。でも、この 3 日間ほとんど転んでいないのです。振りかえって「あそこ滑ったよね、あっちも滑ったよね」と滑りを始めて堪能した八甲田山、夏に歩いた時も良かったけど春の山スキーも格別でした。

#### 【行程】

ロープウェイ山頂駅(11:35)～1250m付近宮嶽ルートに分ける(11:55/12:10)～大岳避難小屋(13:25/13:35)～大岳山頂(14:05)～酸ヶ湯(14:40)

#### 【付録】

【シールについて考えた】

今シーズン 3 種類のシール or 板を経験しました。と言っても山スキー自体、今シーズン始めた私の言う事ですからあんまり適切ではないかもしれませんがシールについてちょっと考えました。

靴や板・ビンディングを選ぶ時は誰しも真剣ですよね。なんといっても高価。買い直しなんてそう簡単に出来ないじゃないですか。靴は足型があっているかとか、板は深雪のときの浮力もあってクラストした斜面でもOKのオールマイティでおまけに引きずって歩く時軽くてなお且つ初心者でもターンがしやすい物をとか散々考えて予算にあった物を選びました。なのに「シールはどうします？」とお店の人に聞かれた時に「一番安いので」と答えてしまいました。そうなんです、ついついオマケの様に考えてしまったのですが、いざ使い始めて(あれ！なんか違う、こんなに重い?)と思ったんです。

このおニューの板とシールを使う前に友達から借りてスキー登高した時とずいぶん違和感がありました。そして御嶽で使ったフリーベンチャーのシールと手触り・吸湿・速乾性と格段の差が有る事に気がついたのです。

調べてみたらシールの素材には大まかに3種類、まずは『アザラシの毛皮』昔はみんなこれだったのですが今は余り見かけませんね。とある登山用品店(S山荘)で出しているオリジナルトレッキングスキーではシールが『アザラシの毛皮』か『モヘア』で選べるそうです。次に『化繊』最近ではこれがもっとも一般的。そして『モヘア』と呼ばれるウールで出来ているらしい物、フリーベンチャーに付属してきたのはこれらしい。肌触りとっても滑らか、生地というなら別珍ですね。片方向に向いた毛足が逆毛でザリザリこれがすべり止めになり湿った雪でも水分を程よくはじいて足送りはとっても軽やか、乾きも格段に早いんです。それに比べて『化繊』の安物(と言っても約一万円するんですが)は足捌きが重い、友達から借りた物も『化繊』だったと思うのですが多分値段と質が違うのでしょう。私のは水分たっぷり含んで乾かないし、ちょっとした下降の時なんか下向いてもピタッと止まったまま動かない。毛足の寝方が甘いので触った感じが既にゾワゾワってしています。教わった対処方はワックスを塗る、お店ではシール専用の撥水スプレーなる物も出まわっております。でも、

それじゃ何の為に安いのにしたのって思いませんか？

厳冬期や春、新雪やクラストしている場合などの毛足の長さや硬さそれぞれに適したシールの蒔蓄もネットで詳しく報告しているページがありました。来期こそ山スキーを始めるぞ、どんな板にしようかなビンディングはどれが良いかな、

なんて考えているその人。くれぐれも「付属品だろ」なんて言ってシールを軽く見てはいけません。素材やカットイングにも色々あるんです。山の用具は奥が深い。予算の都合もありますでしょうが、よく考えて選んでみてください。ま、それしか知らなければ「こんなモンか」で終わりますけどね。(FUKU)

「」 5月8日(日) 「」

## 富士山／山スキー

「」

◆メンバー：工藤寿人(講師)、久野真由美、シニア1名

◆記録：久野真由美

シーズン最後の山スキー講習。この日も、ぱっちり晴れました。しかし、富士宮登山口から仰ぎ見る富士山、工藤講師の話では今年は雪が少な目との事でしたが、それにしても上部の雪が見えないのでちょっと不安でしたが、これは杞憂に過ぎませんでした。少な目ながらも、上部雪渓、下部雪渓共に、充実の滑りが楽しめ、しっかり山スキー納めができました。

板をザックに装着し、兼用靴とストックで登山開始。6合目付近から、ちょろちょろと雪が出てきますが、登りの終了時点まで6~7割は溶岩混じり砂礫の登山でした。兼用靴のバックルを外しても、足首が容易には曲げられずロボットのような登り方となりますが、雪道のキックステップは楽。

5合目から、頂上稜線はそんなに遠そうには見えないのですが、やはり富士山、忍の一字の長い登りでした。休憩の度に下を見下ろすと、宝永山や裾野に広がる大樹林帯や、意外と近くに駿河湾の海岸線が望め、やはり富士山、景色もダイナミック。この景色の中に向かって、滑り落ちる(?)のかと思うと、ちょっとワクワクします。

6合5勺目あたりから、登路の右側に雪渓が伸びているのがやっと見えてきました。これが下部雪渓。雪の多い時は、6合目まで伸びているそうです。8合目付近からは、頂上稜線直下から伸びている上部雪渓が見えてきました。

9合5勺目の小屋に着いたのが、12時半近くだったので、ここから滑り出す事となりました。小

屋の脇の斜面で板を履き、いよいよ滑降。この頃、下界は雲が湧き、残念ながら海に向かってのドロップインとはなりませんでしたが、登る時に横目で見ていたよりも広く長い雪渓で、いいぞ、いいぞ！

雪面の荒れていない所を選んで、三者三様の快適な中ターンで、かっ飛んでいきました。やや湿雪ぎみの中斜面で、凹凸やや多し。私たち以外はほとんど滑っている人がいないので、雪渓のど真ん中を独占状態で、上部雪渓末端まで。

雪渓末端で板を脱ぎ、斜面をトラバースして下部雪渓に移動しました。下部雪渓への降り口は岩の小さな崖になっているので、降り易そうな所を工藤講師が選んで、ほんのちょっとのクライムダウンをしました。

下部雪渓は、滑り出し地点からは、上部より快適なザラメのかなりフラットな中斜面。しかも、上部と同じく広く長い雪渓！いいぞ、いいぞ！ここでも、ほぼ雪渓の独占状態で、今シーズンの最後の滑りを堪能すべく、軽快に三者各様の滑り技を繰り出しました。(??)

下部雪渓の末端付近は、砂礫混じりの黒っぽい雪となり、板はかなり痛めつけられたようです。最後の滑りを終えてからは、再び板を背負い、登山道を下山。兼用靴も砂まみれ。富士山スキーには、車に水を積んでおいて、下山後、板のビンディング周辺・兼用靴に水をかけておくと、後の手入れも楽だと思います。

【行程】

富士宮口新5合目駐車場(6:00/6:25)～6合5  
勺目(7:50)～7合目(9:05)～8合目(10:20)～

9合目(11:25)～9合5勺目(12:25/12:35)～  
駐車場(14:25)

「」 5月8日(日) 「」

三ツ峠／RCT

- ◆メンバー: 小林英男(講師)、田口浩昭、福島彰男、神森揮要子、松永己幸、野中達也、シニア1名、遠足1名
- ◆記録 : 野中達也

前日泊の素泊まり温泉(クアハウス)を車であとにして約20分、三ツ峠山(開運山)登山道駐車場に着く。今回の目的は登頂ではなく、その山頂直下に展開する大スケールのロッククライミングゲレンデ、屏風岩である。

準備体操を行い、駐車場を出発して約1時間強、四季楽園に着く。ようやく眼前に現れた屏風岩にはまだどのパーティの姿も見えず、黒々とその岩肌を冷たく晒して見せる。ゴールデンウィーク明けの日曜日とはいえ、講師はじめ先輩たちもこれほど空いているここは初めてのことである。

講師よりゲレンデ全般についてのおおよその説明を受けトレーニングを開始する。

今回は、フェースやクラック等のバリエーションに富んだ右フェースに陣取る。まずは慣らしで一般ルートや観音ルート周りに5本ほどトップロープを張る。ひとり1回2本ずつ、計8～10本登った後で、いよいよお待ちかねのマルチピッチの練習を行う。

2-3-3の3パーティに別れ登攀する。私のパ

ーティは田口さん、松永さんとの3名だ。田口さんのリードで1Pに一般ルート中央(?)、2Pでクローワール、3Pで草付をトラバースして最後はトップロープで名物・大根おろしを攀じる。この大根おろしでの高度感といったら本当にたまらない。ミシンを踏んだり、機を織ったり・・・。

下りは天狗の踊り場からたっぷりの懸垂下降3Pで終了。しかし途中、壁の傾斜が変わるところでも、ロープの長さが足りていたためそのまま懸垂してしまい、田口さんにピッチをきってもらう一幕もあった。

失敗をあげればまだまだきりはないが、最悪の危険は無い様、講師や先輩方が見守ってくれながら、その中で貴重な失敗である。大切なのはその貴重な経験を、次の山行にどう生かしていくかだと思う。

【行程】

素泊り温泉(5:30)→駐車場(6:15)～四季楽園(7:40)～トレーニング開始(8:10)～終了(16:00)

「」 5月21日(土) 「」

奥多摩／盆堀川桐葉窪

- ◆メンバー: 工藤寿人(講師)、久野真由美、松永己幸、尾久一朗、石田勝幹
- ◆記録 : 石田勝幹

ひさしぶり(3ヶ月ぶり)の山塾の講習、しかも本科生になってはじめての講習である。沢登りもはじめてなので、前日から少々緊張していた。3:00 村上出発、愛車猪号でいざ五日市駅。

9:00 五日市駅集合、全員が自家用車で集まっていた。清水橋をみつけるのに多少つまどった。沢登りの準備、現地で工藤講師から服装のアドバイスをいただく。足首がしまるようなズボン

がいいとのこと。また沢用のスパッツ(当日、久野さんに借りる)があることを知る。

10:08 出発、遡行図の確認、標高の確認、高度計、コンパスを使用しながら場所の確認をする。今回、2万5千分の1地図や遡行図も持参していなかった(これも久野さんにかりるという状態、もっとしっかりしなければと自分に言い聞かせる)。遡行開始、「なんか水がないな」と思っているうちに最初のかまと滝(?)を登る。工藤講師から、3点支持、遡行の方法などの話をうかがった。10:47に5mの滝にくる。最初に松永さんがリードで登っていく(かっこいい)。私もロープを利用して登る。1カ所、よく滑る場所があった。岩のくぼみに足の親指をねじ込むようにして安定させるといいという話に納得した。11:26に休憩。沢の虫(アブ、ブユ、メジロ、ノミ、蚊、ダニ)というテーマで話が盛り上がる。久しぶりに尾久さんにお会いしたが尾久さんの話はあいかかわらずおもしろい。12:22に4mの滝を登り、

12:37に講習が終了する。二股にでて、清水橋にもどる。

今回の講習では、私は沢登りというものを経験し基本的なことを知ることが目的であったので、時間は短かいが充分満足であった。ゴルジュ地形を実感し、沢の臭い(尾久さん、松永さんは臭いがひどいと言っていたが、私はぜんぜん気にならなかった)を嗅ぎ、ロープを使う登りを体験する。初級程度のものであろうが、私にとっては学ぶことがたくさんあった。講習に参加したみなさん、ありがとうございました。

今回この山行の記録も初めてなので間違った言葉の使い方があるかもしれません。なにか、気づいたことがあれば、そっと教えてください。

### 【行程】

盆堀川清水橋(10:08)～桐葉窪遡行～二股～清水橋(13:31)

「」 5月22日(日) 「」

## 奥多摩 つづら岩/RCT

「」

◆メンバー: 金沢和則(講師)、坂口理子、横川秀樹、山野昭人、山野美香、田中治男、福島彰男、石田勝幹、尾久一朗、松永己幸、小室郁子、ゲスト1名

◆記録 : 尾久一朗

「つづら岩での講習は雨にたたられる——。」過去2回連続で中止になったらしい。登山口に着くと空はどんより、空気は湿っぽい。皆、天候を心配しながらつづら岩へ向かった。

アプローチは、噂通りの急登だったが、1時間半ほどで到着。メインゲレンデの南面は混んでいたもので、さらに登山道を数分歩き、つづら岩の端っこに位置するコンパクトな岩場(西面?)に移動した。

まずは、ダブルロープでのリードクライミング。金沢講師や諸先輩から指導を受ける。

ロープを連結する際は、ロープの束で上側に出ている末端をトップが結び、下の末端をセカンドが結ぶこと。ロープが交差しないようにリードとセカンドが左右のロープをそろえること。

セカンドは、支点の位置、信頼度など応じて流動分散などでセルフビレイをとること。ロープ

の送り出しは、ゆるみすぎず、張りすぎない(手元のロープが「し」の字を描くくらいが目安)こと。いつでも素早くロックできるように、トップの動きをよく見て、体制を整えておくことなど。

トップは、逆クリップをしないこと(転落時ロープが外れる)。左右のロープが交差しないようにクリップすること(転落時にロープが擦れ切断!)。ロープがなるべく真つすぐにのびるように、中間支点到使うスリングの長さなどを考えること(ロープが流れなくなる)。ロープがももの裏を横切るような足運びをしないこと(転落時にひっくり返る)など。

早速、ふたり一組のパーティを組み、それぞれがトップ・セカンドで登り、懸垂下降で降りてくるといって一連の流れを練習した。

私は山野昭さんと組んでもらいリードの練習を。「トップは落ちない気合いが大切!」と美香



さんに発破をかけられてスタート。リードで登るのは初めてだったが、自然と逆クリップすることなくできたようだ。また、中間支点を作る作業を実際に行ってみると、いままで漫然と用意していたスリング、カラビナ、クイックドロワーなどが、それぞれどういう局面で必要になるのか、よく実感できた。

セカンドを引き上げるビレイは、前回の日和田で、マルチピッチの一連の動作を松本さんから教わっていたので、それを思い出しながらなんとかこなした。日頃の講習などで常に本番をイメージしながら練習をすることが大切だと思った。ただ、山野さんがスイスイ登ってきてしまうので、ロープのたぐりが間にあわず、たるんでしまうことがたびたびあった。(すみません)

反省点は、もっと素早く状況に応じた的確なセルフビレイができること。おっかなびっくりのところがあって、落ち着きが足りなかった。

午後、若干空いてきた南面に移動し、3人1組でマルチピッチの練習に。ふたつの組は「一般ルート」。私と石田さんは、山野美香さんをリーダーに「左ルート」に挑戦した。

1ピッチ目、美香さんがトップで登っていく。3メートルほど登ったところで最初の関門。左足のスタンスがとれない場所。しばらく試行錯誤したが、左足をスマリング気味に処理して、右上のホールドをつかんでクリア。なるほど。

後はテラスまでさほど難しくない。美香さんに余裕がでたと見るや、下で待つ私と石田さんは「次は水色(のロープ)をクリップです」とか「次は紫です」とか注文をつける。ロープが交差しないようにという配慮もあるが、自分のロープを多めにクリップしてほしいのだ。「最低なパートナーたちだ」と苦笑する。

セカンドで私が登る。核心部は美香さんのマネをしてなんとか通過。難しくてもあわてずムーブを組み立てることに集中できた。少し進歩か。でも、途中でプロテクションを回収し忘れそうに

なったり、別ロープのプロテクションを回収しそうになったり、まだまだ余裕が足りなかった。

テラスにたどり着き、ようやく景色をながめる。奥多摩の山並みがしっかりと湿気をおびていてきれいだった。そう思っていると、石田さんがラストで登ってくる途中、とうとう雨になった。撤退することになったが、大変だったのはここからだ。

まず、石田さんをローアダウンさせるが、テンションがかかったロープが、美香さんのルベルソに食い込んで動かなくなってしまった。ルベルソの泣き所らしい。代わりに私がエイト環でロープをロックし、石田さんに少しテンションをゆるめてもらいルベルソをなんとか外した。当然の処置かもしれないが、すぐにそう提案できて少し自信になった。

つぎの懸垂下降もちょっと応用編だった。石田さんが途中で降りたため、ロープにはプロテクションがいくつか残っている。このためにまっすぐ下に降りることができず、ルート上をトラバースしながら下降しなくてはならなかった。バランスを崩したら、振り子のようにふられてしまう状態のままプロテクションの回収を行うことと、後で回収できなくならないように、ロープラインをまっすぐに保つことが難しかった。

美香さんやフォローに来てくれた横川さんがいたからなんとかあったが、たかが1ピッチの撤退でも、状況にあわせた応用ができないと大変なことになることがよく分かった。必死に頭を使ったという点で、この撤退が今日の講習で一番ためになった。

リードやマルチピッチでのクライミングは、工夫や判断が要求されるという点で習得するべきことも多いが、その分おもしろく思えた。

#### 【行程】

武蔵五日市駅(8:30)→千足登山口(9:00)～つづら岩にてトレーニング(10:30 / 16:10)～千足登山口(17:00)

「」 5月22日(日) 「」

### 丹沢／箱根屋沢

「」

◆メンバー：小林英男(講師)、向原侑希、神森揮要子、野中達也、シニア1名、遠足1名

◆記録：野中達也

今朝の天候は、どんよりとはしているが何とかもちそうだ。

小田急線新松田駅より車で1時間弱、西丹沢中川流域にある箱根屋沢は、箱根屋橋から沢へ降りてすぐ遡行を開始できる。恵まれたアプローチである。

今回の参加要項には「どの滝もIV級程度の難度があり・・・」と謳われており、少しだけ不安を感じる。しかし、「どどんりリードしてもらって、大いに楽しんで下さい」との講師の声に、いつの間にか期待ばかりが大きく膨らむ。

箱根屋橋で準備体操を行い、早速遡行開始。堰堤(の梯子)を3つほど越え、最初の滝が現れる。自分が登る番を待っていると、右岸の涸れた枝沢から落石がおきる。そして間もなく単独のハイカーが降りてくる。掛け声くらいはかけて欲しいものと思った。

ひとつの滝をクリアするともう目の前に次の滝が現れる。当然、その滝々でルート取りやブレイポイントなどの状況が違うが、その都度、実践に即した様々な方法を教えていただきながら沢を詰めていく。

私がリードをさせてもらい、ブレイ支点を作っていると講師から「ピッピッピ」と鋭く催促の笛が鳴り響く。セカンドで登ってきた先輩が一目見て、折り返し支点の位置をサッと高い位置に直していただくと、あら不思議、(では決してないが)引き上げのブレイがまったく楽になる。

正午をまわり、3段20mの滝を右から高巻くと、垂壁然とした15メートルの滝が現れる。ここで昼食をとる。そしてここが今回のメインイベント「人工登攀・アブミ」の舞台である。初めて目に

するアブミのなんとも頼りないこと・・・。「信用できない」と内心想う。

講師がリードで華麗なる模範を示す。「結構アブミって頼れるものなんだ」と感心する。また、ジャンピングについてもレクチャーを受け実際に打たせてもらう。

私の番になる。極力冷静に、客観的に平常心を保ちながら、無駄な力を入れず、等々考えながら「結構いけるものじゃないか」と少しだけ自信過剰になりながら登攀していると、なんと、アブミをかけるカラビナのゲートを無意識に握り締めて開けている・・・。「さっきはアブミを悪く言ったんじゃない、悪いのはオレだ!だからアブミよ頼む!!」と、必死になっていた、悟られないように。

全員無事にアブミを終え、遡行はここまで、来た沢を下降する。何度か懸垂を繰り返し、途中、幅広の滝を再度別ルートで登らせていただくオマケまで付いた。入渓点の箱根屋橋が見えてくる頃には大粒の雨が落ちてくるが丁度で間に合う。

沢は結構本番ルートに通じるものがあるのではないだろうか、というのが実感だ。この講習で得たことを基に、もっと経験を積み、知識を広げ、レベルアップを計りたい、そしてまだ実際に目にしたことのない谷川の壁に登攀している姿を帰りの車中で想像していた。

#### 【行程】

箱根屋橋入渓(10:00)～人工登攀の滝(13:00)～箱根屋橋(16:30)

||||| 5月28日(土) |||||

### 丹沢ノ小草平ノ沢

|||||

◆メンバー: 工藤寿人(講師)、福島彰男、野中達也、松永己幸、遠足1名

◆記録 : 松永己幸

がたがたの砂利道を抜けると二俣、小草平ノ沢と勘七ノ沢の入渓点だ。勘七ノ沢はそれなりに水流があるが、小草平ノ沢は非常に少ない。予習通り小草平ノ沢の水量を支える流域面積が勘七ノ沢のそれとでは規模に違いがある。

地図上の小さな谷と実際の沢の大きさの感

覚を身に付ける。又、出合では本谷と支流の沢床の高さの違いを確かめ、高度計と磁石と地形を総合的に考え、現在地を同定する。

ロープを出す所ではリードをしていく。リードでは落ちてはいけない鉄則に反してしまった。講師から厳重注意を受ける。反省する。

チョックストーンでは、インディージョーンズみたいだよ。という言葉で、ドキッ！落ちてこないでね。と祈りながら登った。

今回の沢では自分でルートを探せる楽しみ

を感じた。

### 【行程】

入溪(9:00)～下山(13:45)

「」 5月29日(日) 「」

## 丹沢／勘七ノ沢

「」

◆メンバー：工藤寿人(講師)、田中治男、福島彰男、松永己幸、小室宏文、小室郁子

◆記録：田中治男

天気予報に反し汗ばむ陽気となった。大倉バス停は清掃登山の人々、その他もろもろで結構にぎわっていた。駐車場から沢取りつきまで平坦な道を約1時間徒歩。車利用の人をうらやましく思ったが、前泊の人は前夜の酒がぬけたのではないだろうか。

沢に入るといきなりそれなりの滝が。(F1)順番待ちで他のグループの登攀の仕方、ガイドと思しき人のすばやいピレイの動きは参考になった。わがグループは福島さんがリードして登った。

F2、F3、F4をこえ昼前に2段の堰堤へ。意外に難しい。しかし他の人が次々に越えていく中、ここを越えないと昼飯にありつけない。しがみつきのながらも何とか越えられた。続いて本日のメインとなる大滝へ。

(F5) 15mは下から見ると結構な高度だ。誰も

高巻くと言わず、松永さんが果敢にもリード。ここでも後に続くのは気が楽だ。その後はゴルジュ帯、ガレ沢を地図、コンパスを片手に進む。二俣、三俣と所々別れていて間違えやすい。意外と高度差があり、最後のほうは結構バテた。

何とか登りきると懐かしき花立山荘の裏に。しばし休憩の後大倉尾根を下山。勘七の沢は表丹沢で1、2を争う人気の沢とのこと。多くのグループがいたが、確かに短い距離の中にいろいろバリエーションに富み結構楽しめたと思う。次の課題は自らリードすることだ。

### 【行程】

出合(10:05)～F1～F4～堰堤(12:00/12:30)～大滝～ゴルジュ帯～ガレ沢～三俣(15:30)～花立山荘(16:00)～大倉(17:00)

\*\*\*\*\*

## ■じん帯繁盛記 その9 ～矢田 実～

\*\*\*\*\*

「やってきました再建手術！編」

手術入院のため1回お休みをいただきました。痛くて楽しかった入院生活。それでは、心新たに連載再開です。

入院一週間前、病院から電話が入った。22日の手術がいっぱいなので入院を1日早めてほしいとのこと。「おいおい、簡単に言ってくれるな。勤め人はそう簡単にはいかないよ。」交渉の末、午後からの入院となる。

5月20日(水)、荷物を持って午前中出社。あわただしく仕事を終え、12時30分入院

口へ。あいにくの雨模様。母と待ち合わせしていたが、なんと両親そろって待ちかまえていた。「え？親父も来たの？」「おう！暇だから見学に来た。」「綺麗になったね～」とキョロキョロ。「……」団体職員の親父は今でも「視察」が大好きだ。ああ……。

松葉杖とT字帯を購入。手続きを終え、A棟11階の入院病棟へ。いよいよ入院生活に突入だ。受付で個人端末用のICカードを受け取り、病室へ案内される。部屋番号は1111号、一並びとは縁起が良い。カーテンで仕切られた4人部屋は思ったより広がった。ロッカーや金庫・冷

蔵庫も完備されている。なかなかの快適空間だ。同室のIさんとSさんに挨拶。同じ日に入院したSNさんは、明日ヘルニアの手術とのことだ。

看護師さんからパソコン端末兼テレビの操作説明を受ける。パスワードを登録すると、個人の検査結果や治療の予定、使用する薬の種類や、食事メニューの選択が行える。便利！右腕には、患者名と番号の記載された空色の認識票をつけられる。「入院中は、はずさないでください。」患者の取り違え防止や、意識の無い場合の患者確認に必要となるそうだ。続いて手術当日の説明。「今日の21時以降の飲食は禁止ですから注意してください。明日の10時頃までに排便がない場合は、浣腸をします。」「うう～浣腸は避けたいな・・・がんばらねば！」緊張。「当日はこちらの手術着に着替えてください。朝から点滴を行います。」etc・・・「明日の手術は何時からでしょうか？」「前の方の手術終了後になりますので、午後の予定です。」「後で、シェーバーを待ってきますので、足の毛を剃ってください。当日使うバスタオルとT字帯はお預かりします。」説明のち検温と血圧測定。ここで両親は退場。

手術に備え念入りに膝の毛を剃る。つるつるの足は妙に違和感がある！ニーブレスEXのサイズ合わせののち、車椅子の操作説明と練習開始。明日からの片足生活に備えニーブレスをつけトイレに行き、一連の動作を練習。苦戦！走りは、意外と小回りが利き面白い。操作は戦車と同じ要領だ。片方の車輪をロックするとくると曲る。病院内を激走！

夕方最終検査に突入。膝とむこう脛に鉛の錘をのせた、CT スキャン撮影。サイベックスによる左右の伸筋と屈筋の筋力検査(3回全力で蹴り上げたら太ももの裏が痛くなった)。片足での前方へのジャンプテスト(右 1m60cm、左 1m40cmぐらいだった)。回復の目標となるらしい。

18時過ぎ、担当医のY先生によるインフォームドコンセント。「再建手術は、関節鏡視下で行います。皮膚を切開し、骨にトンネルを開け、採取した腱と通し、金属で固定します。腱は、左膝半腱様筋腱、状況によっては、薄筋腱を追加使用します。」「手術の危険性ですが、細菌感染、知覚障害、下神経血管損傷などがありま

す。」「九割の方が、治療に満足していただきますが、残念ながら効果のない方もいらっしゃいます。リハビリをきちんとやらなかった方が多いのですが。」などなど、患者の現症状と疾病の種類。治療方法と手段、身体に与える侵襲、麻酔の種類、手術の危険性の程度、治療(手術)によって期待できる効果、費用などが書類で説明される。同意書にサイン。40分ほどで終了。ようやく夕食。量は少ないが、なかなかおいしい。これで22日の朝まで食事は取れない、十分味わっていただく。19時より入浴。もちろん風呂も当分入れない。あわただし1日が終了しほっと一息。21時最後の水を飲み消燈。しばらくテレビを見てゴロゴロしていたが程なく夢の世界へ・・・ZZZZZZZZ

4月21日(木)オペ当日、6時30分起床。病院の朝は早い！さっそく、検温と血圧・血中酸素量の測定。今日は朝食なし、水も飲めない。やまなくうがいで我慢する。周りの人が食事をしているのに食べれないのはちょっとつらい。程なく朝のお勤めも無事終了。第一関門突破！とにかく浣腸は免れた。8時からラクテックス(電解質溶液：早い話がポカリスエット)の点滴開始。製薬メーカー見たら「大塚製薬」と記載されていた。あらま・・・点滴されては、そう動くわけにはいかない。テレビを見ていると姉が来た。両親も到着。

11時ごろ、電気パルスによる感覚テスト。膝に電極シートを貼り、痛みを感じたら手を上げる。検査技師の人から「かなり敏感ですね。」と言われた。それって「痛みが、人よりきついでこと？」褒められてもうれしくない。「手術は14時頃からになります。5分前に呼び出しがかかりますので、トイレを済ましておいてください。」との連絡があり、手術着に着替え待機。緊張！！

13時50分、家族の見送り(ひやかし?)を受け、6階オペ室に向かう。点滴をぶら下げたキャスターで移動する。眼鏡をかけてないのでよく見えない。手術準備室で待機。「お名前を教えてください」「○×△です。」認識票を再度確認。看護師の申し送りが終了し、呼び出しがかかった。手術室の扉が開く！！次回「長い夜編」に続く。

\*\*\*\*\*

## ■こちら技術委員会～講師/金沢和則～

\*\*\*\*\*

### <下草>

憂鬱な梅雨がはじまる、しかし山に行く計画はどんどん出てくる(笑)。登山なのだから縦走はできるし、沢も条件がそろえばいける場合もある。岩はなかなか気分がのらないけれど。ところでこの時期にもうひとつ憂鬱なものが・・・それは森の中に下草が増えること。でも藪漕ぎの話じゃなくてここでは庭の話。

『え、そんなに広いのか、森の中～っ?』

「あ、そうじゃなく下草の話」

『?!』

山が新緑のころ、木々萌えるさまを快く思い、樹林の中の下草だっていろいろな種類があることに妙に感心したりするくせにね。庭にもそれと同じように名も知らぬ草木が増えてくるとどうも違う行動をとる。増え過ぎ、大きなものになると、整理したいと思ってしまう。すっきりさせたくない。

庭って手入れしてないと庭にはならない。それが実感できるのは塀の外がそのまま山になっているからだろうか。そこが市街下調整区域でもあるので山そのままの要素が強い。そこから植物が押し寄せてくるのだ。その中でも蔓性の植物が結構手ごわい。塀の中にある数本のクスノキも塀を越えて長い触手が伸び、からまり、そして樹氷よろしく緑のモニュメントになってしまう。その部分を剥ぎ取っても、年ごとに蔓の前線基地は確実に増え、こちらに近づく。ついにあるとき掃討作戦に出た。もっとも枯葉作戦や焦土作戦のような化学兵器など持ち出す真似はしないけどね。ま、緩衝帯を切り開いたわけだ、お互いのために。こうなるとそれまでその植物のいた下に日差しが入り、それまで押しやられていた新たな植物が幅を利かす。こうして次のシーズンには別のグループが大きな群れを成す。草木の生態を知ることができ、これはこれで面白い。まあ、ともかく庭の秩序を保つには、手入れが必要なわけだ。ほったらかしでは庭にならない。もっとも山を彩る樹林も、森林のもつ環境保全機能として活用、防風林・防火林・雪崩防止林・水源かん養機能など、目的を持ち間引きや下草刈など手入れされ、コントロールされている

ところもあるのだから、庭の一種かな。手つかずの原生林や手入れが行き届かない森は奥に入っていくと少ないのだろう。

『オイオイ、いったいどう話がまとまるの、環境の話か』

「ここで話はそのコントロールなんだけど植物の、それも主に食べるとか、そうした生産性を追及した植物の」「ま、畑ですね、それもビルの一室を利用しての」

都心の廃屋ビルを利用、日照となる太陽の替わりの光り成分や、水分・ミネラルその他の栄養など、生態系の研究からコンピューター制御で完全供給、結果均一の品質をいつでも一定量で効率よく生産できるシステムの追求。ビル内での農産物の商品開発技術の進められている話を聞いたことがある。一般的にいう自然栽培のものに同一(いやそれ以上か)のものができるといふ。

さて、いろいろな経験や知識が蓄積され、品質を生み出すシステムが高度化へ向かっている山塾はどうだろう。

『本当かよ』

「まあまあ抑えて(笑)、ともかく・・・」

山をはじめて間もない人でも、よりはやくまとまった情報が届き、時間かけて(かかって)得られた場合と同じいろいろな楽しみが満喫できる。で、登山者として自然栽培と同質かそれ以上に。でもほんとうに同質なのかな(因縁つけてるわけじゃないけどね・笑)。同質であることを確認する、または示すのは実は結構大変かも。1000の因子で同じであっても。まだ気が付かない1001個目のなんらかしらの因子が、違うかもしれないからだ。だから自然栽培と同じとはいえないわけだ。そもそも自然栽培が必ずしもいいわけじゃないけれど(それは置いて)、まあ、それなりにいける(楽しめる)ところに達しても、油断しないでね。ってことかな。簡単に言えば。こんなこと考えてる自分だっていんちき促成栽培、ニセ自然栽培品だろうから、1001個目の不足部分があると思って進んでいったほうが長生きするような気がする。と、いうことで気を引き締めていこう今年の夏。

## ■□■□ 編集室だより ■□■□

岩小舎が手元に届いてまず始めにこの「編集室だより」を読む方(そんな人いない?)、今月号のボリュームの多さにうんざりして記録を読まずにゴミ箱へ・・・なんていうことのないようにお願い致しますね。

どうやら皆さん冬眠から醒めたようで、今月は自主山行の記録も15本となりました。会員のエネルギーを強く感じるところです。編集部員の皆さんお疲れ様でした。そして今回は会員の皆さんにもお手伝いを頂き無事発行することができました。どうもありがとうございます。

今では山関係以外のことにはほとんど関心を示さなくなってしまった私ですが、山塾に入会して山にどっぷりつかると前は、パン作りを趣味にしておりました。

ほんとうに久々に山行がお休みだった先週土曜日、なまった腕を磨き直そうと思い立ち、パンの製作に取りかかったのです。

まずはじめに材料を混ぜ、ある程度まとまったところで板の上で生地をこねるのですが、これには腕の力を相当使います。力のある・ない(例えば男性と女性)で仕上がりに差があるのです。しかしここがパン作り工程のなかの核心なので手を抜くわけにはいきません。以前は翌日腕が軽い筋肉痛になったりしましたが、今回こね上がりがいつもより早く、腕も疲れたり痛くなったりしなかったのです。

そう... どうやら人工壁通いが意外なところで役に立ったようです。

これからも、美味しいパンを焼くために人工壁に行くゾ!

(m)

~~~~ 6月の一言集 ~~~~

◆「沢登り」とかけて「初心者野中」ととく→そのころは「ツボにはまります」(野中)

◆この三ヶ月、お日様よりも早くに目が覚める。それだけ使える時間が増えたのに、やりたい事・やらねばならぬ事がまだいっぱい、時間が足りな〜い。(Yui)

◆連休の長いテント生活。軽量化でエアーマットを省き、ザックに寝ていました。腰が痛くて、寝返りばかり。

エアーマットの快適さを実感しました。(阿出川)

◆「チェアキャンプ」の意味合いを、参加する人々の家族にまで思いを巡らせて考え直せたのは収穫だったと思います。(山野昭)

◆ラジオで耳にした石田純一名言? 「二兎を追うもの、三兎目が現れる」。近年走り出してしまったからなあ。クライミングも疎かには出来ないし。えっ! 山スキーもってことか? (松本)

◆山つつじ、しゃくなげが咲き、つつじの花びらの絨毯の上を歩く西上州の山は、遠かったけれどすてきでした。(いとうえい)

◆5月の富士山。一度、スキーでトライしてみたかったので、嬉しかったな〜。雪少な目ながらも、日本一のお山を滑るのは、やっぱり快哉! (久野)

◆GW が明け、松葉杖通勤開始! なぜか、やたらに松葉杖の人を見かけるようになった。これって気のせいかな? (矢田)

◆5月の塩見岳。完全に「冬山」だったが、行動中はえらく暑く、のどが渇きまくり。頂上を前に何度も生ビールの幻想? が現れた…。反省、この時期は水を多めに。(尾久)

◆6月から一人寂しく、単身赴任! 面倒くさいと思う反面、・・・へ〜楽しみもある。(ゆ KI お)

◆地図を見てるとあつという間に時間が過ぎて行く。又今日も夜中になってしまった。(福田)

◆足の痛みが引いてきたので岩、沢120%さ。でもまだ走れない。(松永)

◆T-WALL 通い始めて半年。最近停滞の日々が続く。“継続は前進”と思い、引き続き半年フリーパスを購入。(福島)

◆ブログ「iwagoya2005」公開中。1~2年目の方に向けて、読むと得する技術論、道具論を、ほぼ毎日執筆中。ウラ Web からお入り下さい。そろそろネタ切れ近し・・・。(横川)

◆沢手袋を衝動買い。黒くて何かカッコイイなー、と家に帰って考える。…あ! これってスケバン刑事じゃん! てめえら、許せねえ! シャキーン! (←ヨーヨーを構える音。)(R子)

◆登攀用具のいろいろを探るうちに熟中?! 今月の一言の締め切り日を忘れる (kanazawa)

## ■5月の山行一覧

| 種類    | 場所                                                | 日程       | メンバー                                                     | 記録             |
|-------|---------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------|----------------|
| 1 講習  | 八甲田山/山スキー                                         | 4/30-5/2 | 工藤, 沢口, 伊藤幸, 伊藤栄, 久野, 福田, 遠足<br>1名, シニア1名                | 久野<br>伊藤<br>福田 |
| 2 自主  | 上越国境/<br>白砂山~三国峠                                  | 4/30-5/1 | 松本(L), 宮下卓                                               | 宮下             |
| 3 自主  | 会津~尾瀬/スキー縦走                                       | 5/1-4    | 岩本(L)                                                    | 岩本             |
| 4 自主  | 藤坂ロックガーデン/RCT                                     | 5/1      | 松永(L), 田中                                                | 松永             |
| 5 自主  | 藤坂ロックガーデン/RCT                                     | 5/1      | 山野美(L), 山野昭                                              | 山野昭            |
| 6 自主  | 北ア/槍ヶ岳北鎌尾根                                        | 5/4-5    | 金沢(L), 坂口, 横川, 山野美                                       | 山野美            |
| 7 講習  | 富士山/山スキー                                          | 5/8      | 工藤, 久野, シニア1名                                            | 久野             |
| 8 講習  | 三ツ峠/RCT                                           | 5/8      | 小林, 田口, 福島, 神森, 松永, 野中, シニア1<br>名, 遠足1名                  | 野中             |
| 9 自主  | 三ツ峠/RCT                                           | 5/8      | 伊藤幸(L), 伊藤栄                                              | 伊藤栄            |
| 10 自主 | 越沢バットレス/RCT                                       | 5/8      | 横川(L), 山野美                                               | 横川             |
| 11    | 廻り目平/チェアキャンプ                                      | 5/14-15  | 会員35名, ゲスト29名                                            | —              |
| 12 自主 | 小川山/セレクション                                        | 5/14     | 横川(L), 山野昭, 山野美, 福島                                      | 福島             |
| 13 自主 | 小川山/技術勉強会                                         | 5/15     | 横川(L), 山野昭, 山野美, 福島, 松永                                  | 松永             |
| 14 自主 | 廻り目平~朝日岳~金峰<br>山/藪こぎ                              | 5/15     | 伊藤幸(L), 伊藤栄, 福田, 黒田                                      | 伊藤幸            |
| 15 自主 | 廻り目平~大弛峠/<br>トレイルラン                               | 5/15     | 松本                                                       | 松本             |
| 16 講習 | 奥多摩/盆堀川桐葉窪                                        | 5/21     | 工藤, 久野, 尾久, 松永, 石田                                       | 石田             |
| 17 自主 | 御岳/ボルダリング                                         | 5/21     | 横川(L), 山野美                                               | 山野美            |
| 18 講習 | 奥多摩 つづら岩/RCT                                      | 5/22     | 金沢, 坂口, 横川, 山野昭, 山野美, 松永, 田<br>中, 尾久, 福島, 石田, 小室郁, ゲスト1名 | 尾久             |
| 19 講習 | 丹沢/箱根屋沢                                           | 5/22     | 小林, 向原, 神森, 野中, シニア1名, 遠足1名                              | 野中             |
| 20 自主 | 西上州/赤岩峠~天丸山                                       | 5/22     | 福田(L), 工藤, 伊藤幸, 伊藤栄                                      | 福田             |
| 21 講習 | 丹沢/小草平ノ沢                                          | 5/28     | 工藤, 福島, 松永, 野中, 遠足1名                                     | 松永             |
| 22 講習 | 丹沢/勘七ノ沢                                           | 5/29     | 工藤, 田中, 福島, 松永, 小室宏, 小室郁                                 | 田中             |
| 23 自主 | 谷川岳・一ノ倉沢/<br>烏帽子岩奥壁 南稜                            | 5/58     | 伊藤幸(L), 伊藤栄                                              | 伊藤栄            |
| 24 自主 | 谷川岳・一ノ倉沢/<br>烏帽子岩奥壁 南稜<br>衝立岩 中央稜<br>烏帽子沢奥壁 中央カンテ | 5/28-29  | 横川(L), 山野美                                               | 山野美<br>横川      |

# 月刊 岩小舎 7月号の予定

(2005年7月15日発行)

## 【掲載予定】

### □講習山行

広沢寺 RCT  
丹沢 マスキ嵐沢  
奥多摩 倉沢谷本谷  
丹沢 源次郎沢  
丹沢 セドの沢左俣

### □自主山行

北ア 錫杖岳  
谷川周辺 湯蔵山  
日和田 RCT  
奥多摩 浅間尾根～笹尾根 カモシカ山行  
奥多摩 長谷川杯コース カモシカ山行  
八ヶ岳 小同心クラック・中山尾根  
岳嶺岩 A1トレーニング  
丹沢 大山川

発行 無名山塾(埼玉県山岳連盟所属)

住所 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

電話 03-3941-3481

FAX 03-3941-3482

HP <http://www.sanjc.com/>

編集長 山野美香

編集部 伊藤幸雄

久野真由美

坂口理子

福田洋子

横川秀樹

### □机上講座の予定

(於:豊島区立勤労福祉会館 19:00～)

7月28日(木)「テント山行の準備・パッキング・  
生活技術」

8月25日(木)「山の天気」

9月22日(木)「読図」

☆原稿は7月5日締め切りです。

## ◇本科25期生 紹介◇

石田 勝幹さん／新潟県(4月入会)

高橋 一也さん／埼玉県(4月入会)

広谷 明子さん／千葉県(4月入会)

小室 宏文さん／東京都(5月入会)

小室 郁子さん／東京都(5月入会)

